オンプレミス型セキュリティ管理ツール

V8/V9 から V10 へのバージョンアップ手順書

第 6 版
2024 年 11 月 12 日
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

目次

1. はじめに

1. 本資料は、ESET PROTECT ソリューションをご利用のお客さまがバージョン 8/9 からバージョン 10 へバージョンアップする際に必要となる作業や注意事項について記載しています。

2. 本資料は、本資料作成時のソフトウェア及びハードウェアの情報に基づき作成されています。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに記載されている機能及び名称が異なっている場合があります。また、本資料の内容は将来予告なく変更することがあります。

3. 本手順ではプログラムのバージョンアップは上書きインストールにて実施いたします。
上書きインストールの対応しているバージョンであるか確認の上、本手順を実施ください。
＜バージョンアップ対応表＞
https://eset-info.canon-its.jp/files/user/pdf/support/eset_be_vup.pdf

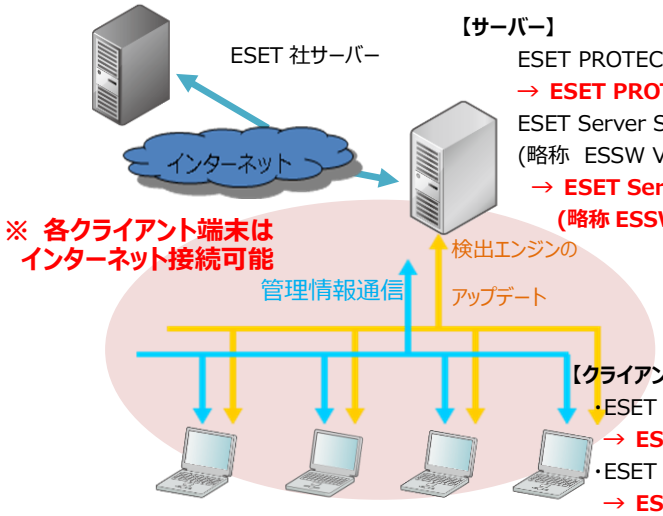
4.

2. 本資料における構成の前提

本資料は、以下の構成を前提として、V8/V9 のプログラムから V10 へバージョンアップする際のフローや注意点を記載しております。以下の構成に当てはまらないバージョンや構成におきましても、本資料を参考にバージョンアップを実施いただけるように必要な情報を記載しております。

※お使いのプログラムが本手順にてバージョンアップができる組み合わせかについては事前にご確認をお願いいたします。詳細は p.3「1. はじめに」の 1-3 をご確認ください

		バージョンアップ前	バージョンアップ後
全体構成		・Windows クライアント、300 台程度管理 ・モバイル管理なし ・1 台の専用サーバー機で管理機能とミラー機能を運用 ・プロキシサーバーなし ・オールインワンインストーラーを利用してインストール	・Windows クライアント、300 台程度管理 ・モバイル管理なし ・1 台の専用サーバー機で管理機能とミラー機能を運用 ・プロキシサーバーなし ・既存サーバーを利用 ・各クライアント端末はインターネット接続可能
サーバー用 (Windows Server 2019)	管理	・ESET PROTECT V9.1	・ESET PROTECT V10.1
	ミラー	・ESET Server Security for Microsoft Windows Server V8.0 以前のミラー機能 または ・2018 年 4 月 9 日以降公開のミラーツールを IIS を利用して公開	2022 年 5 月 31 日以降公開のミラーツールを IIS を利用して公開
	ウイルス・スパイウェア対策	・ESET Server Security for Microsoft Windows Server V8.0	・ESET Server Security for Microsoft Windows Server V10.0
クライアント用 (Windows10)	管理	・ESET Management エージェント V9.1	・ESET Management エージェント V10.1
	ウイルス・スパイウェア対策	・ESET Endpoint Security V9.1 または ESET Endpoint アンチウイルス V9.1	・ESET Endpoint Security V10.1 ・ESET Endpoint アンチウイルス V10.1



【サーバー】
ESET PROTECT V9.1 (略称 EP V9.1)
→ ESET PROTECT V10.1 (略称 EP V10.1)
ESET Server Security for Microsoft Windows Server V8.0
(略称 ESSW V8.0)
→ ESET Server Security for Microsoft Windows Server V10.0 (略称 ESSW V10.0)

【クライアント】
・ESET Endpoint Security V9.1 (略称 EES V9.1)
→ ESET Endpoint Security V10.1 (略称 EES V10.1)
・ESET Endpoint アンチウイルス V9.1 (略称 EEA V9.1)
→ ESET Endpoint アンチウイルス V10.1 (略称 EEA V10.1)
・ESET Management エージェント V9.1 (略称 EM エージェント V9.1)
→ESET Management エージェント V10.1 (略称 EM エージェント V10.1)

3. 新バージョンへのバージョンアップフロー

V8/V9 のプログラムから V10 へバージョンアップを実施するにあたり必要なステップは、以下の通りです。

【STEP1】セキュリティ管理ツールのバックアップ

STEP1-1. SQL Server Management Studio のインストール

STEP1-2. セキュリティ管理ツールのサービス停止

STEP1-3. データベースのバックアップ

STEP1-4. コンフィグレーションファイルのバックアップ

【STEP2】新バージョン対応のミラーサーバーの準備

STEP2-1. 検出エンジン取得用のミラーツールの設定

STEP2-2. ミラーツールの定期実行をタスクスケジューラに設定

STEP2-3. 検出エンジン配布用の IIS の構築

STEP2-4. 既存ミラーサーバーの無効化

STEP2-5. 新ミラーサーバーの起動

STEP2-6. バージョンアップ前クライアントのアップデート先変更

【STEP3】サーバーのバージョンアップ

STEP3-1. 動作要件の確認

STEP3-2. ESET Server Security for Microsoft Windows Server のバージョンアップ

※ESSW V8.X / V9.X をご利用の場合

STEP3-3. ESET PROTECT のバージョンアップ

STEP3-4. データベースのバックアップ

STEP3-5. ピア証明書と認証局のバックアップ

【STEP4】クライアントのバージョンアップ事前準備

STEP4-1. バージョンアップ完了確認用の動的グループ作成

STEP4-2. 動的グループへのポリシー適用

【STEP5】EM エージェントのバージョンアップ

STEP5-1. クライアントの EM エージェントをバージョンアップ

【STEP6】クライアント用プログラムのバージョンアップ

STEP6-1. 動作要件の確認

STEP6-2. クライアント用プログラムのバージョンアップ

【STEP7】ESET PROTECT での管理開始

＜参考＞

V8/V9 をご利用時にミラーサーバーを使用していないお客様は、ミラーサーバーに関する以下の手順を実施いただく必要はございません。

【STEP2】新バージョン対応のミラーサーバーの準備

【STEP4】クライアントのバージョンアップ事前準備

STEP4-2. 動的グループへのポリシー適用

4.【STEP1】セキュリティ管理ツールのバックアップ

セキュリティ管理ツールのバージョンアップを行う前にデータをフルバックアップしてください。

STEP1-1. SQL Server Management Studio のインストール

1. 以下 URL より、SQL Server Management Studio をダウンロードし、サーバーへインストールしてください。

<SQL Server Management Studio ダウンロードサイト>
https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/ssms
※本手順では SQL Server Management Studio 19 を利用します。
バージョンを指定する場合は、上記リンク内の「以前のバージョン」>「Previous SSMS releases」をクリックし、「以前のリリースの SSMS」より任意のバージョンを選択ください。
※ご利用の SQL Server のバージョンに対応した SSMS をインストールください。
※インストール後、再起動が要求された場合は再起動します。

2. 「Microsoft SQL Server Management Studio」を起動できることを確認します。
※初めて起動する場合、起動に少々お時間がかかります。

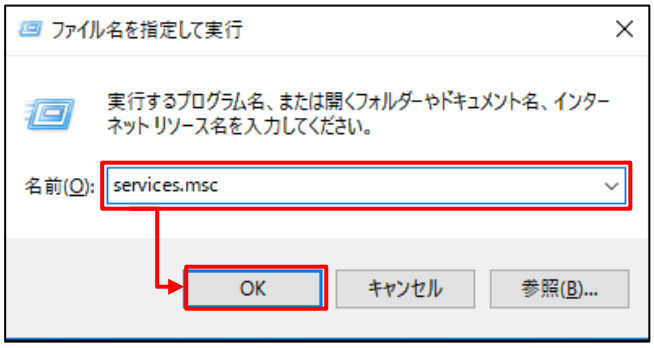
STEP1-2. セキュリティ管理ツールのサービス停止

サーバーのデータベースのバックアップを取得するために、以下の手順を参照してバージョンアップ前の EP または ESMC のサービスを停止させます。

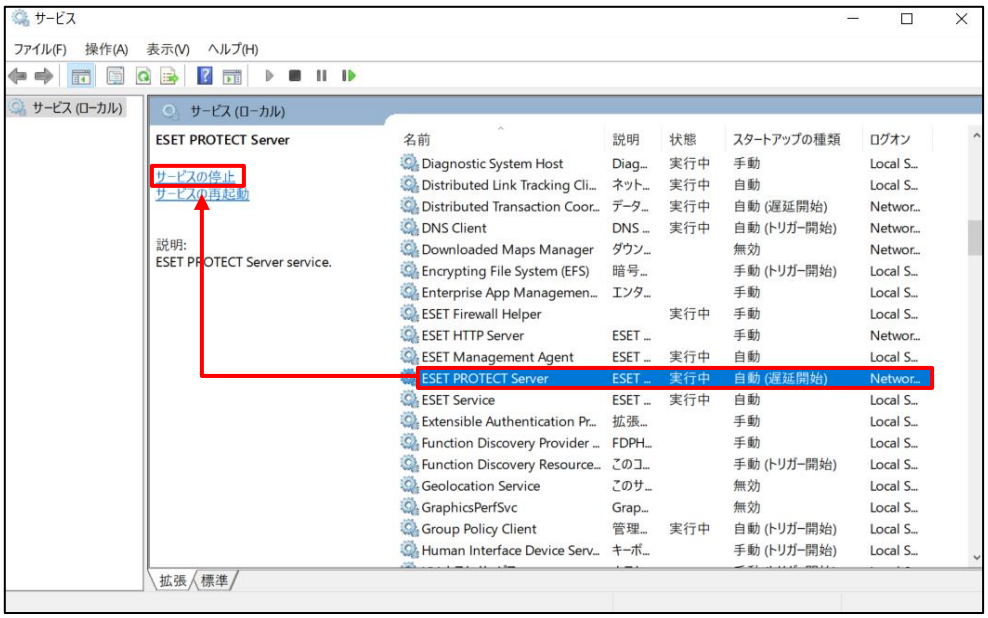
<注意>

セキュリティ管理ツールのサービスを停止するため一時的にクライアントを管理することができません。
サービスが停止している間のクライアントのログはクライアントの EM エージェント自身で保持しており、サービス起動後に通信が確立された段階でセキュリティ管理ツールにログが送付されます。

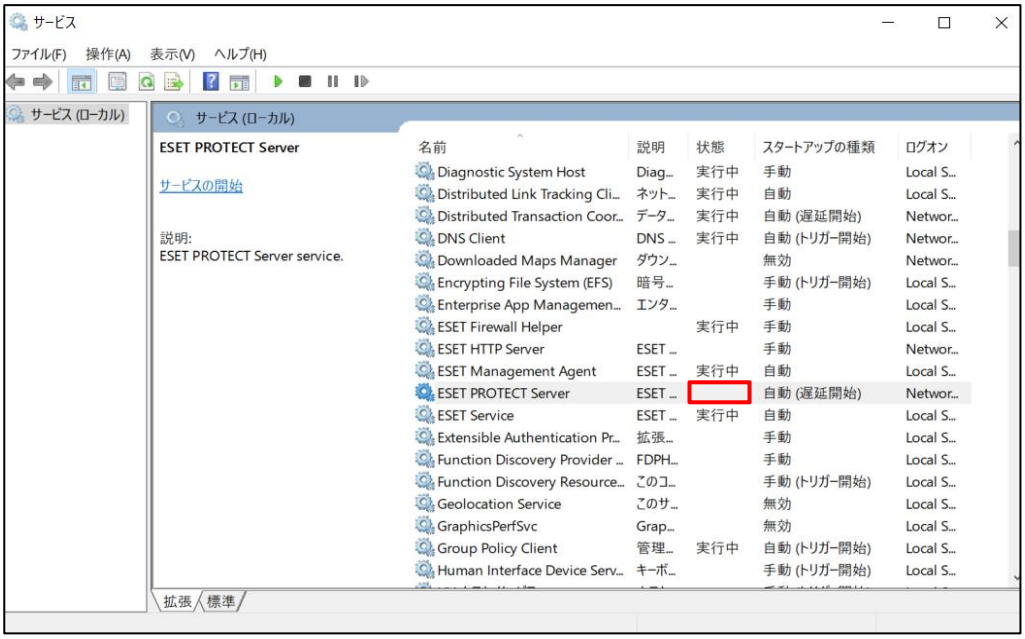
1. 「Windows キー」+「R」でファイル名を指定して実行させるウィンドウを開き「services.msc」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



2. 「ESET PROTECT Server」サービスを選択し、サービスの停止をクリックします。



3. 「ESET PROTECT Server」サービスの状態が空欄になったことを確認します。

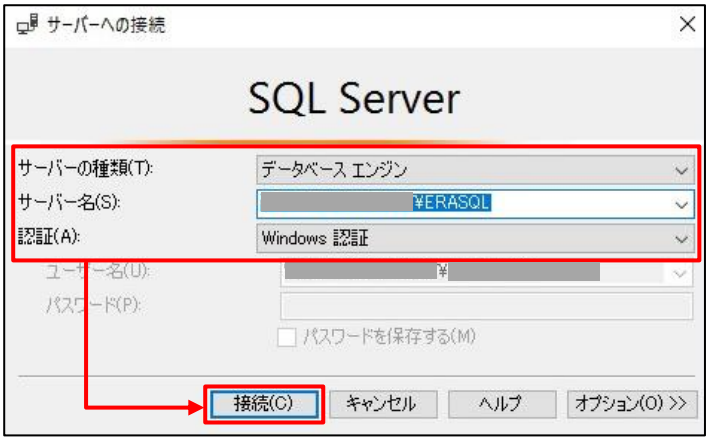


STEP1-3. データベースのバックアップ

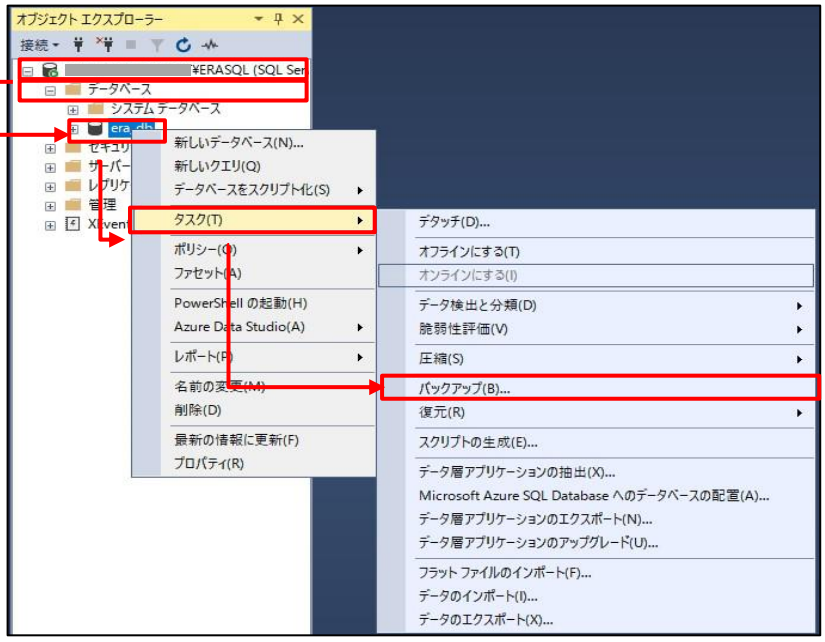
1. [Microsoft SQL Server Management Studio]を起動します。
   ※初めて起動される場合、起動までお時間がかかる場合がございます。

2. サーバーへの接続画面で、以下の通り項目を確認して[接続]ボタンをクリックします。

サーバーの種類	データベースエンジン
サーバー名	EP のサーバーで使用しているインスタンス名 ※既定は「コンピューター名¥ERASQL」
認証	Windows 認証

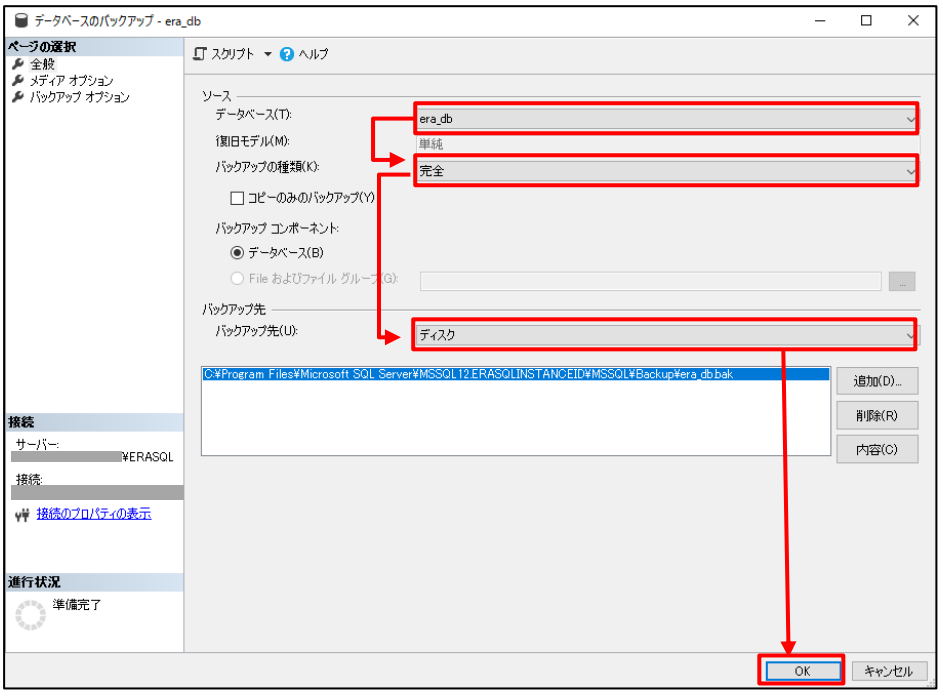


3. オブジェクトエクスプローラーより、[インスタンス名]-[データベース]-[era_db]へ移動します。
「era_db」を右クリックし、[タスク]-[バックアップ]をクリックします。

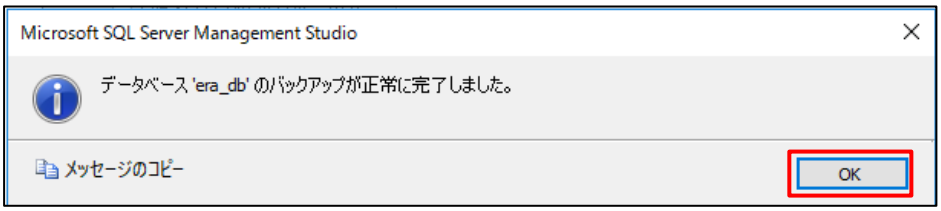


4. データベースのバックアップ画面で、以下の通り設定し、[OK]ボタンをクリックします。

データベース	era_db
バックアップの種類	完全
バックアップ先	ディスク



5. 以下のメッセージが表示されたらバックアップは正常に終了しています。
[OK]ボタンをクリックして、閉じます。



※「アクセスが拒否されました」といったエラーが出力された場合は、バックアップファイルの出力先にアクセス権限があるかご確認ください。

6. 手順 4 で作成したバックアップファイルが指定の場所に格納されていることを確認します。

STEP1-4. コンフィグレーションファイルのバックアップ

1. 以下のフォルダーの「Startupconfiguration.ini」ファイルをコピーし、任意の場所に保存してください。

<Windows Sever 2012/ Windows Sever 2016/ Windows Sever 2019 のディレクトリ>

C:¥ProgramData¥ESET¥RemoteAdministrator¥Server¥EraSeverApplicationData¥Configuration

※[ProgramData]が表示されない場合は、[表示]-[隠しファイル]にチェックを入れてください。

※Mobile device Connector をインストールしている場合は、以下のフォルダーの「Startupconfiguration.ini」ファイルもコピーし、任意の場所に保存してください。

<Windows Sever 2012/ Windows Sever 2016/ Windows Sever 2019 のディレクトリ>

C:¥ProgramData¥ESET¥RemoteAdministrator¥MDMCore¥Configuration

2. バックアップ完了後、【STEP1-2】を参考に「ESET PROTECT Server」サービスを起動してください。

<注意>

EP V10 のサポート OS は Windows Server 2012 以降です。
サポート OS に関しては、以下 URL をご確認ください。
https://eset-info.canon-its.jp/files/user/pdf/support/esetbe_os_era.pdf

<参考>

セキュリティ管理ツールのバージョンアップに失敗した場合、データベースとコンフィグレーションファイルのバックアップを使用して、バージョンアップ前の状態に復元することができます。
＜オンプレミス型セキュリティ管理ツールのフルバックアップをする手順、および、リストアする手順について＞
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/119?site_domain=business

また、バージョンアップ時にデータの引き継ぎに失敗した場合は、サポートセンターまでお問い合わせください。
＜お問い合わせ窓口(サポートセンター)のご案内＞
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/883?site_domain=business

5.【STEP2】新バージョン対応のミラーサーバーの準備

バージョンアップを行ったクライアントが検出エンジンのアップデートができるように、**ミラーツールを利用しアップデート先(新ミラーサーバー)を用意します。**また、この手順でバージョンアップ前のクライアントのアップデート先も新ミラーサーバーに変更しておきます。

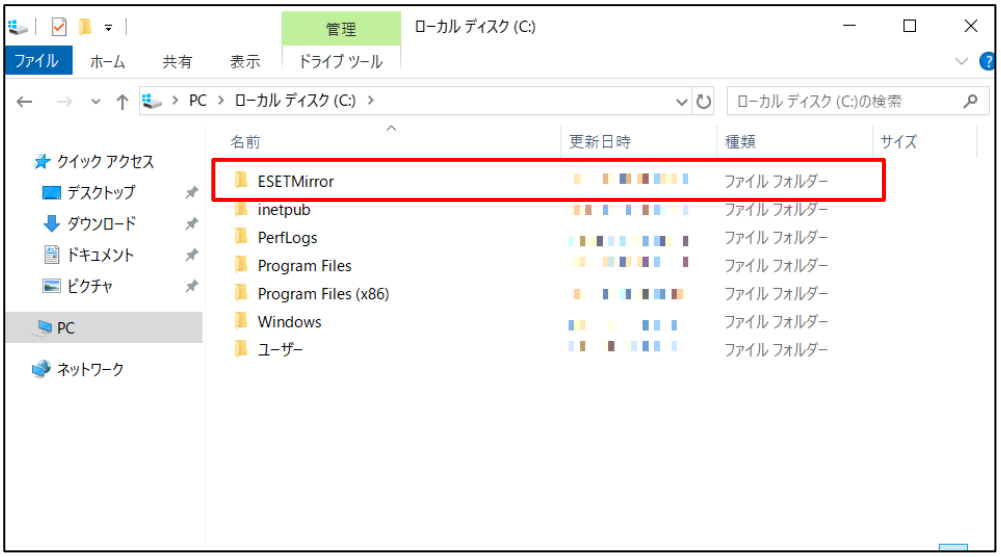
「2018 年 4 月 9 日以降に公開したミラーツール」をご利用いただきミラーサーバーを構築している場合は、「2022 年 5 月 31 日以降に公開したミラーツール」に差し替えていただく必要がございます。
◇使用中のミラーツールを新しいミラーツールに差し替えるには？
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/9490?site_domain=business#no2
差し替え完了後、STEP2-1「手順 7」を参照いただき、バッチファイルの内容の修正を行ってください。

STEP2-1. 検出エンジン取得用のミラーツールの設定

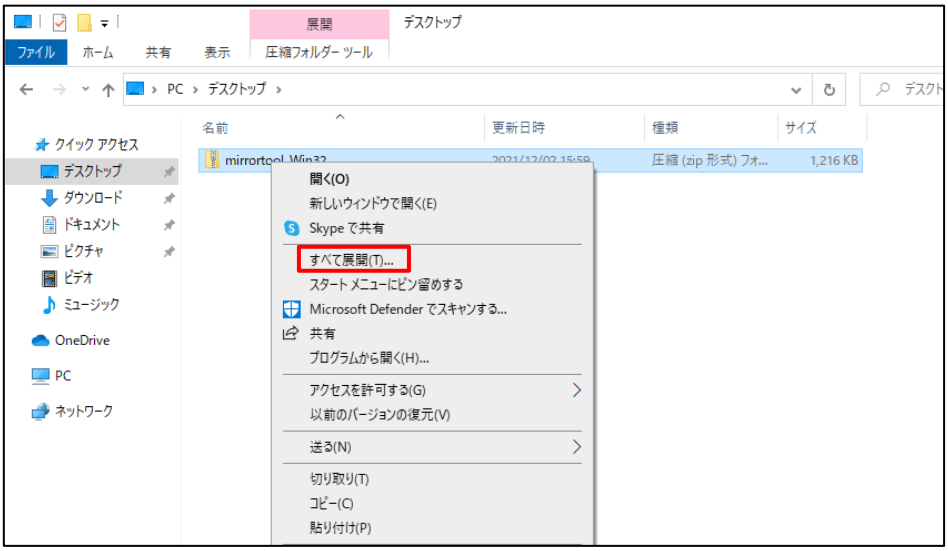
バージョンアップ前の環境でプログラムのミラー機能を使用しミラーサーバーを構築していた場合は、以下の手順でミラーツールを使用したミラーサーバーを構築する必要があります。
※本手順は、管理者権限を持ったユーザーアカウントで実施してください

1. ユーザーズサイトにログインし、2022 年 5 月 31 日以降に公開の「Windows Server 向けミラーツール」をダウンロードします。
   [ユーザーズサイト]
   https://canon-its.jp/product/eset/users/index.html
   ※ユーザーズサイトにログインするにはシリアル番号とユーザーズサイトパスワードが必要です。
   ※ユーザーズサイトで[プログラム/マニュアル]-[最新版のプログラム/マニュアルダウンロード]-[オプション(各種ツール)]-ミラーツールへと進みます。

2. C ドライブ直下に新規で「ESETMirror」フォルダーを作成します。

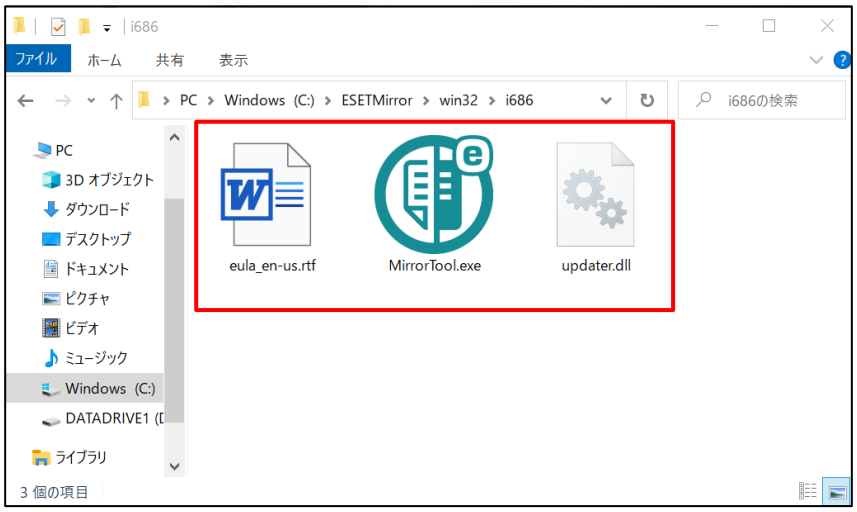


3. ダウンロードした zip ファイルを右クリックして「すべて展開」をクリックします。



4. ファイルの展開先を「C:¥ESETMirror」に変更し、「展開」をクリックします。

5. 展開したファルダー内に「MirrorTool.exe」、「updater.dll」、「eula_en-us.rtf」があることを確認します。



6. 以下の Web ページをご参照のうえ、オフラインライセンスファイルに「offline」と名前をつけ、展開した「Win32」（または「i686」）フォルダーにダウンロードします
◇オフラインライセンスファイルのダウンロード方法
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/4327?site_domain=business

7. ［スタート］メニューを右クリックして［ファイル名を指定して実行］を選択して、「notepad」と入力し、メモ帳を起動します。
以下の通り、コマンドを入力します。

```
cd /d %~dp0

MirrorTool.exe --mirrorType regular --intermediateUpdateDirectory .¥mirrorTemp --offlineLicenseFilename .¥offline.lf --outputDirectory .¥mirror --excludedProducts （excludedProducts 値）
```

※上記コマンドを記載したバッチファイルを実行すると、対応バージョンに分かれて検出エンジンのフォルダーが複数作成されます。クライアント端末のプログラム/バージョンごとに、参照先フォルダーが分かれておりますので、下記 URL を参照し不要なフォルダーはコマンド内の「--excludedProducts」に記載して取得対象から除外してください。

◇アップデート可能なプログラム対応表
https://eset-info.canon-its.jp/files/user/pdf/support/v70_mirror_correspondence.pdf

例）EES/EEA V10 と ESSW V10 がアップデートを行う場合
※ミラーサーバーの検出エンジン（ウイルス定義データベース）のフォルダーのうち、「v4」「v5」「ep6」「ep7」「era6」フォルダーが不要です。

```
--excludedProducts ep8 ep9 ep11 era6
```

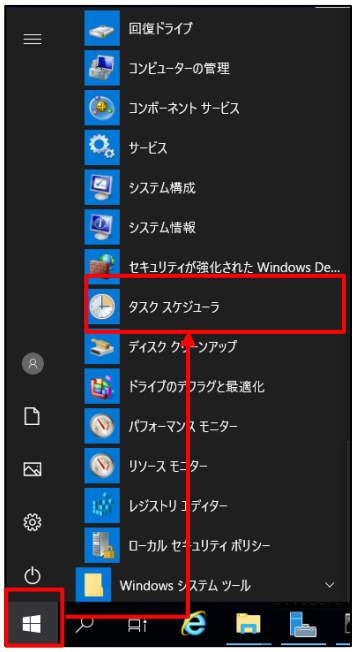
※ミラーサーバーにプロキシサーバーを利用している場合は、上記コマンド 3 行目の末尾に以下の 4 つのオプションを追加します。ただし、「--proxyUsername」と「--proxyPassword」は、認証が不要な場合は追加する必要はありません。

```
--proxyHost （プロキシサーバーの IP アドレス） --proxyPort （プロキシサーバーのポート番号） --proxyUsername （認証用ユーザー名） --proxyPassword （認証用パスワード）
```

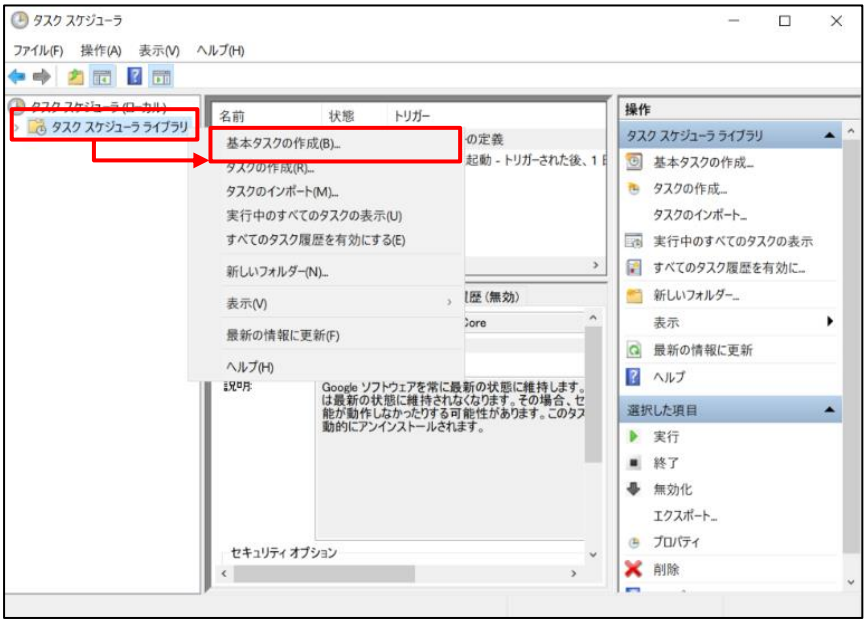
STEP2-2. ミラーツールの定期実行をタスクスケジューラに設定

STEP2-1 で作成したバッチファイル「mirror.bat」を定期的に実行して検出エンジンを最新に保つため、タスクスケジューラにバッチファイルの定期実行を登録します。

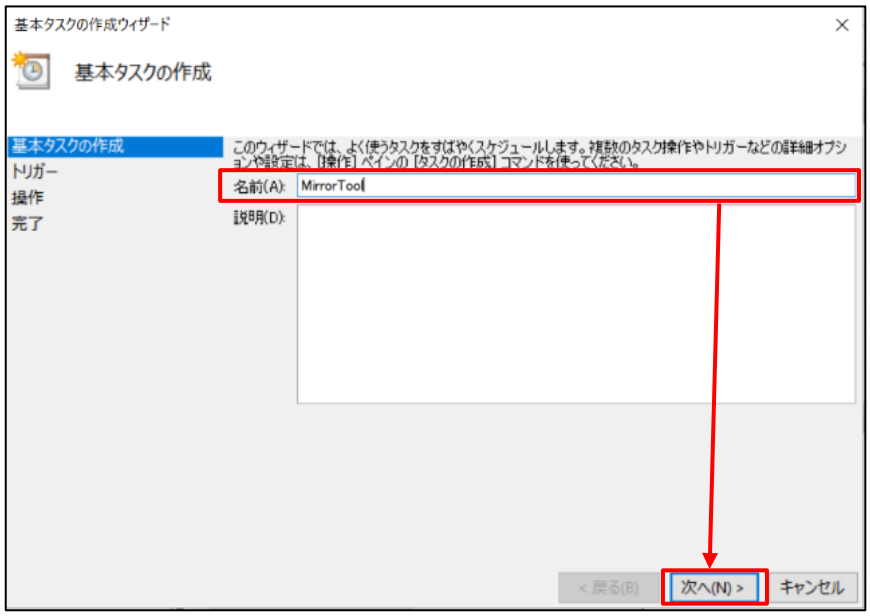
1. 「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」→「管理ツール」とクリックして「タスクスケジューラ」をクリックして起動します。



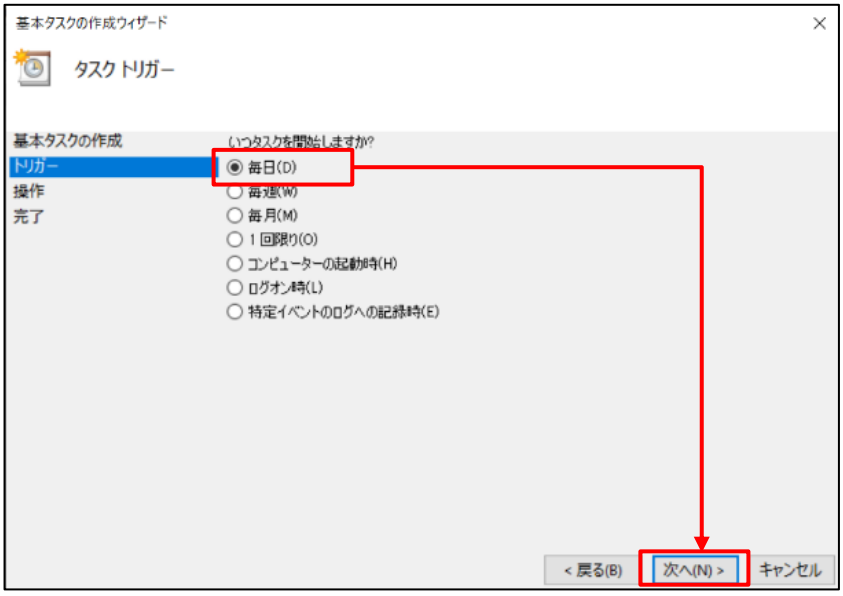
2. 「タスクスケジューラ ライブラリ」を選択して右クリックし、「基本タスクの作成」をクリックします。



3. 「基本タスクの作成」画面が表示されるので、タスク名「MirrorTool」を入力して、「次へ」ボタンをクリックします。

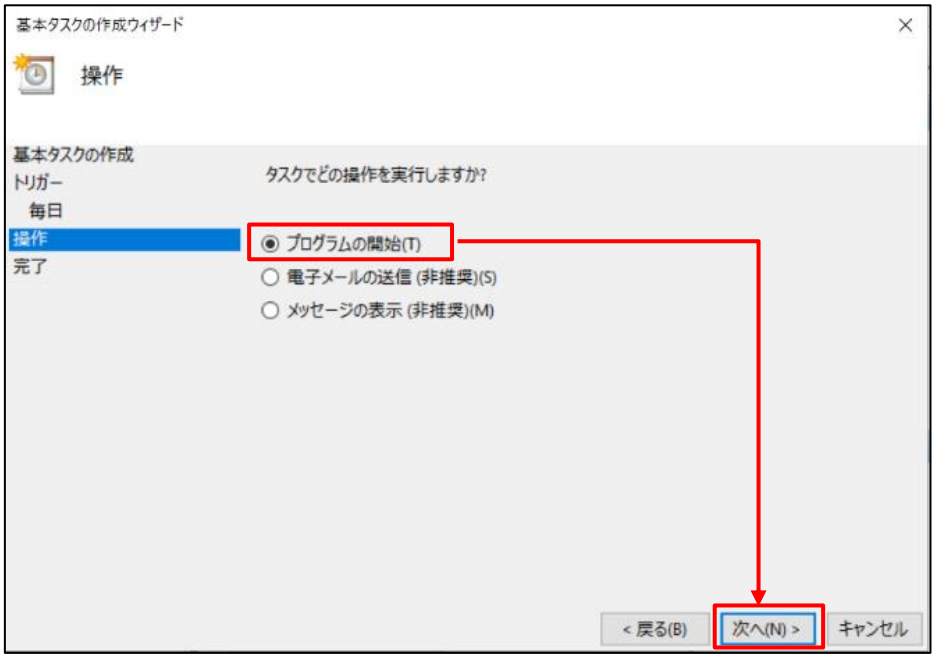


4. 「タスクトリガー」画面が表示されるので、「毎日」にチェックを入れて「次へ」ボタンをクリックします。

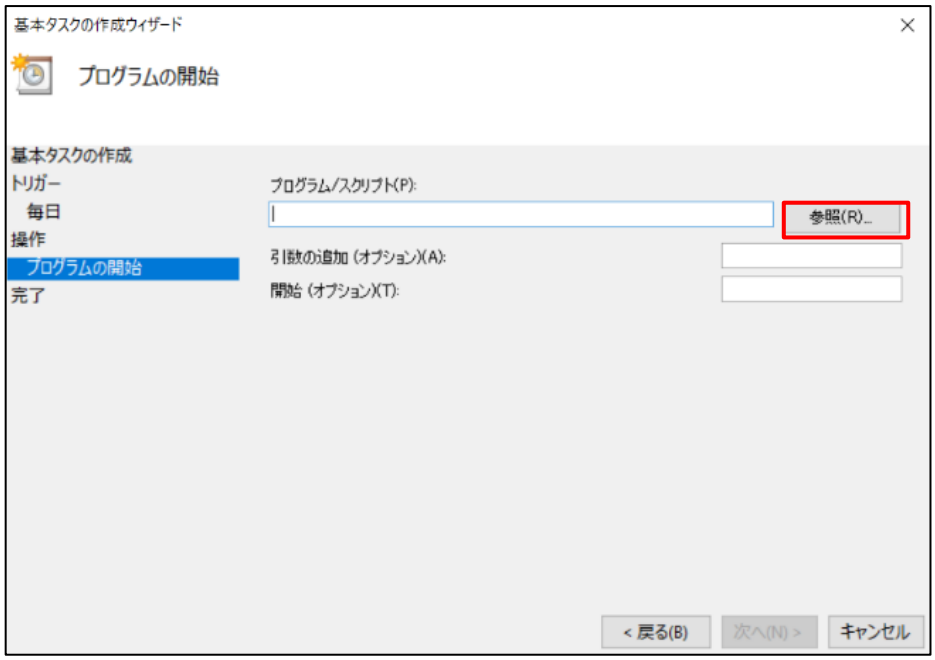


5. 「毎日」画面が表示されるので、任意のタスクの開始年月日と時間を設定して「次へ」ボタンをクリックします。

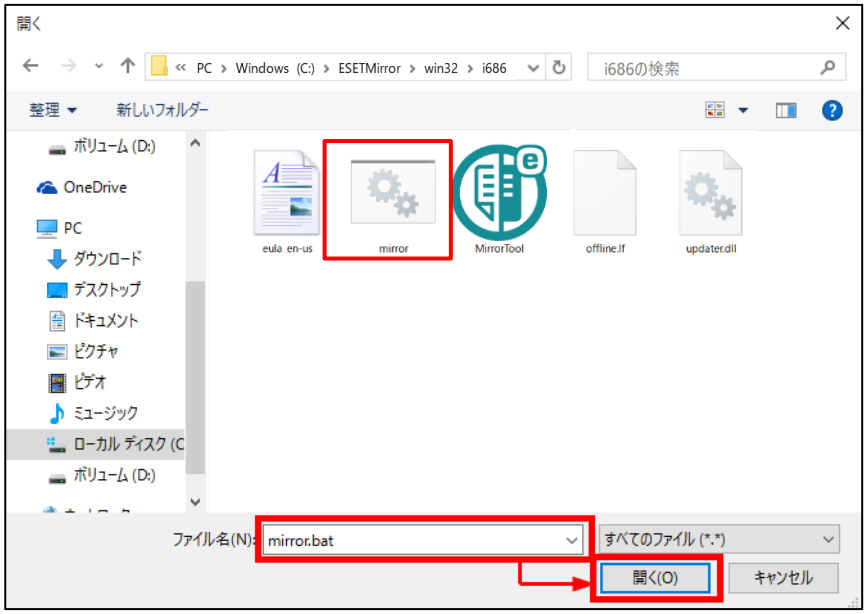
6. 「操作」画面が表示されるので、「プログラムの開始」にチェックを入れて「次へ」ボタンをクリックします。



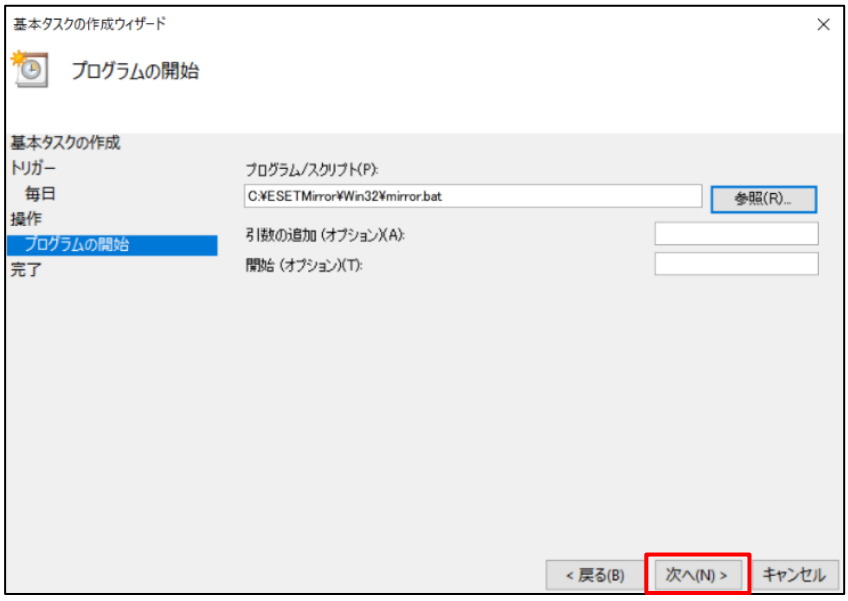
7. 「プログラムの開始」画面が表示されるので、「参照」ボタンをクリックします。



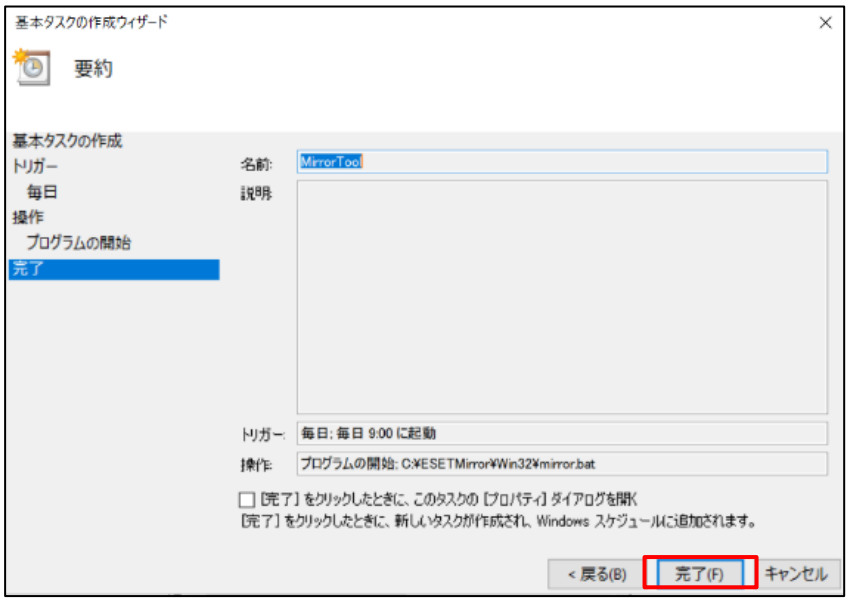
8. STEP2-1 で作成したバッチファイル「mirror.bat」を選択して「開く」をクリックします。



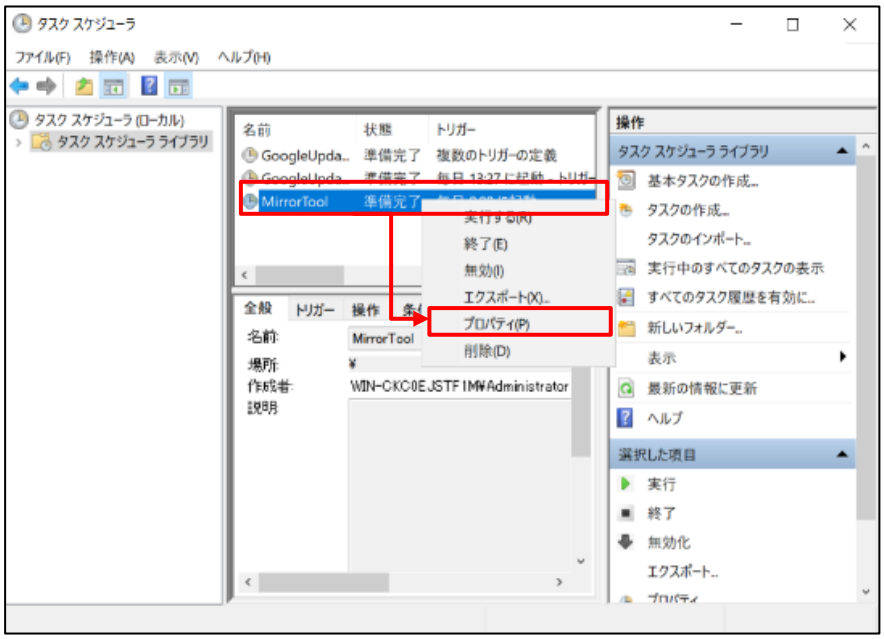
9. 「次へ」ボタンをクリックします。



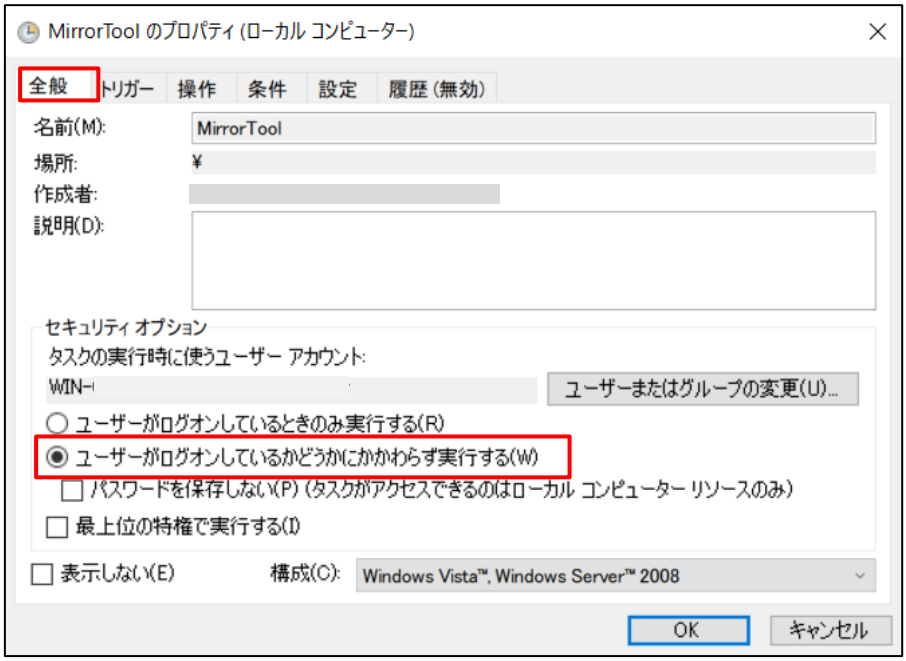
10.「完了」ボタンをクリックします。



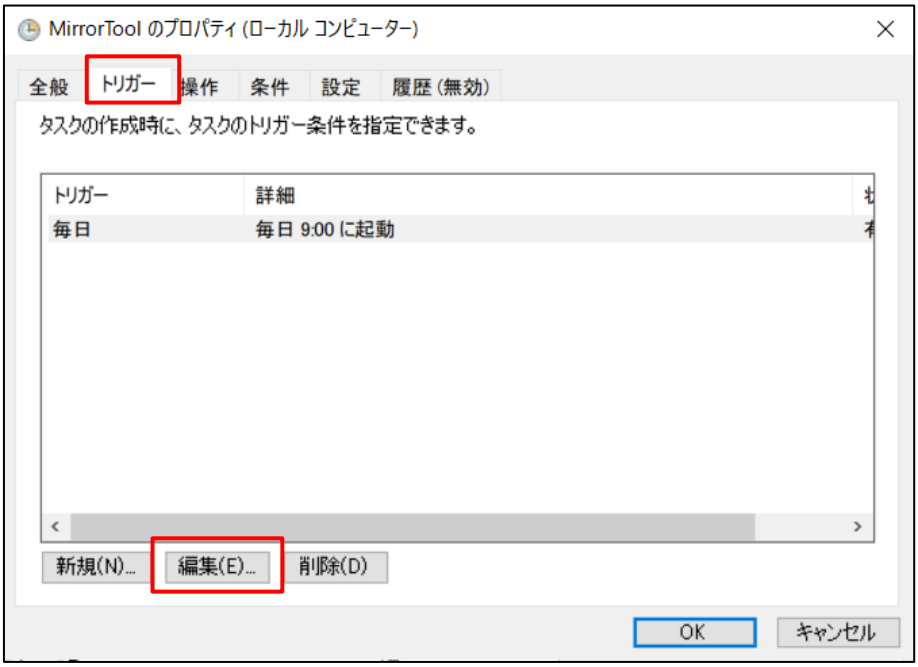
11. 手順 3 で作成したタスク「MirrorTool」を右クリックして「プロパティ」を選択します。



12. タスク「MirrorTool のプロパティ(ローカル コンピューター)」画面が表示されるので、「全般」タブを選択して「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」にチェックします。



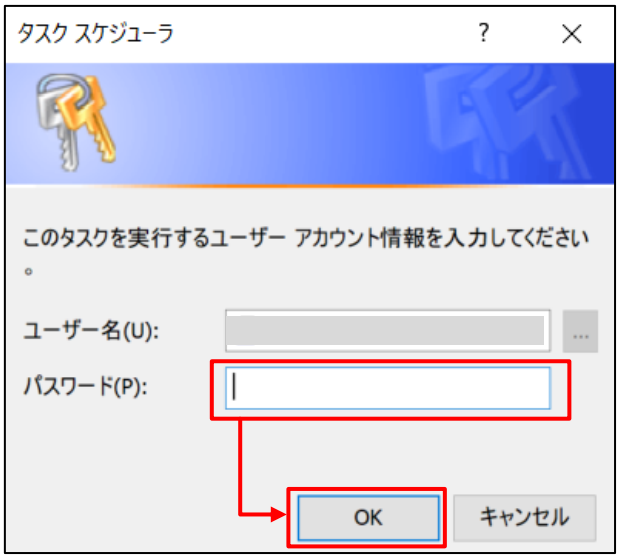
13. 「トリガー」タブを選択して「編集」ボタンをクリックします。



14. 「繰り返し間隔」にチェックを入れ、「繰り返し間隔」と「継続時間」の設定をそれぞれ変更して「OK」ボタンをクリックします。（例：繰り返し間隔「1 時間」/ 接続時間「無期限」）

15. 「OK」ボタンをクリックします。

16. 「このタスクを実行するユーザー アカウント情報を入力してください。」画面が表示された場合は、現在ログインしているユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。
※ 本手順は、管理者権限を持ったユーザーアカウントで実施してください。



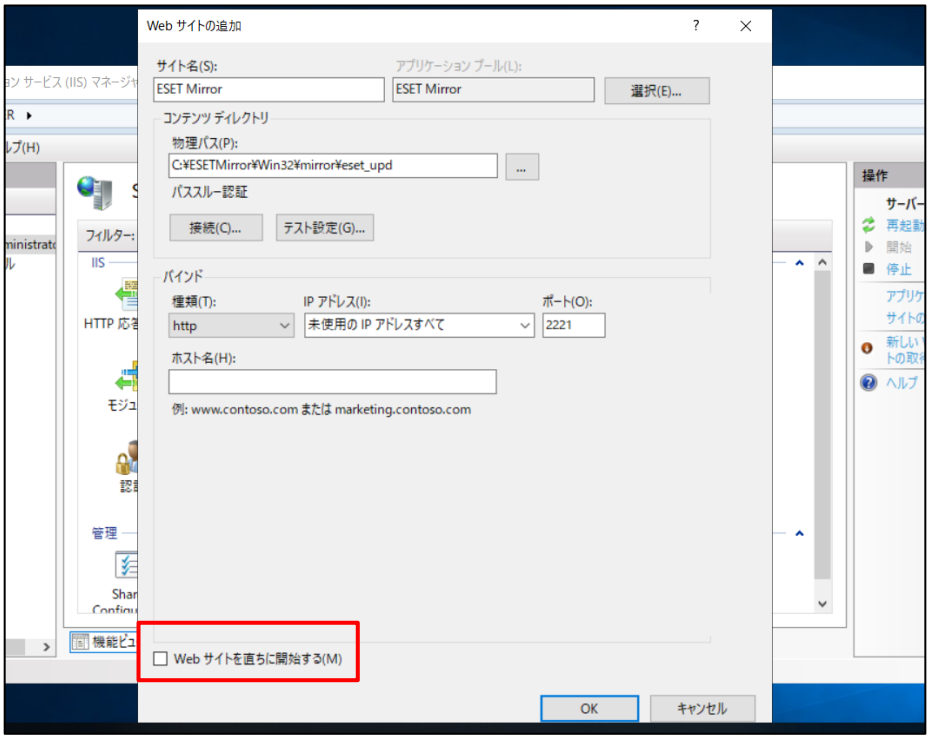
17. 「×」ボタンをクリックしてタスクスケジューラ画面を閉じます。
※設定した時間になったらミラーサーバー用の検出エンジン（ウイルス定義データベース）が作成されます。なお、初回の検出エンジン（ウイルス定義データベース）の作成にはお時間が掛かります。

STEP2-3. 検出エンジン配布用の IIS の構築

IIS で検出エンジンを公開する手順につきましては下記 URL より、「2. IIS 環境の構築 <Web サーバーでの作業>」をご確認ください。

◇IIS を利用して検出エンジン（ウイルス定義データベース）を公開する手順
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/9499? site_domain=business

※バッチファイル「mirror.bat」の実行後に作成された**「eset_upd」**を IIS で公開し、フォルダー内にある、検出エンジン（ウイルス定義データベース）のフォルダー(例:ep10)からアップデートを行います。
※上記 URL 内の[2. IIS 環境の構築 <Web サーバーでの作業>]-[Step.2 IIS の設定]-[手順 4]で Web サイトを作成する際、**「Web サイトを直ちに開始する」のチェックをオフ**の状態で作成してください。既存ミラーサーバーのポートと重複し、エラーが発生してしまう場合があります。

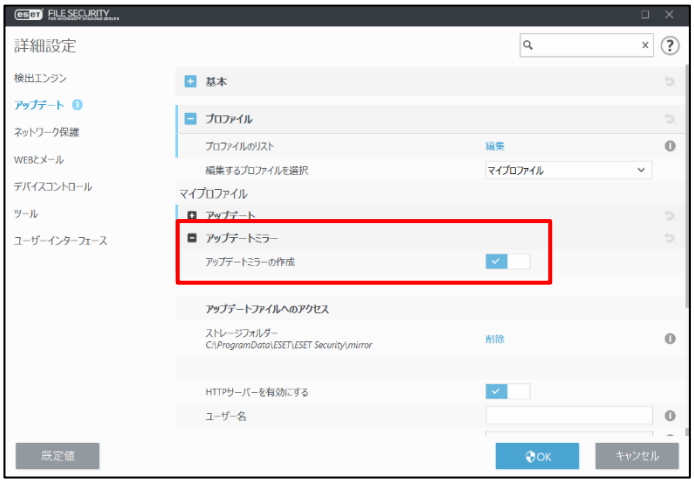


STEP2-4.既存ミラーサーバーの無効化

STEP2-3 にて IIS で構築したミラーサーバーから検出エンジンをアップデートできるようにするため、既存ミラーサーバーを無効化します。

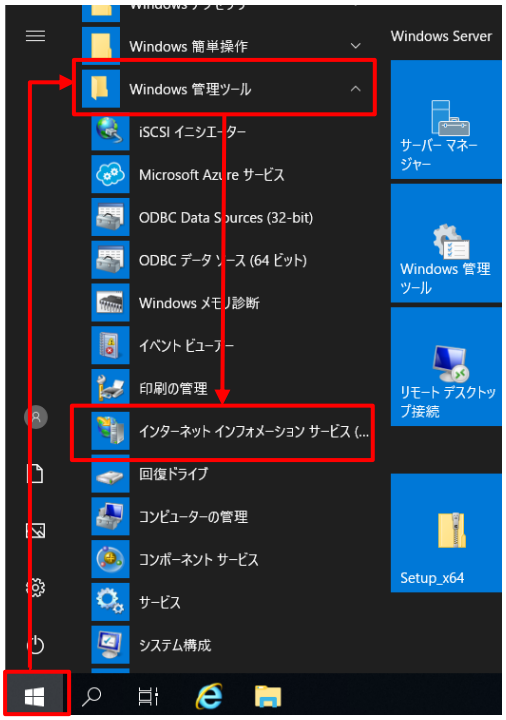
1. 既存ミラーサーバーのデスクトップのタスクトレーより ESET のアイコンをクリックしメイン画面を開きます。
2. F5 キーを押下し、詳細画面を開きます。
3. [アップデート]-[プロファイル]-[アップデートミラー]より、[アップデートミラーの作成]を無効にします。

※同様の設定はポリシーからも設定が可能です。

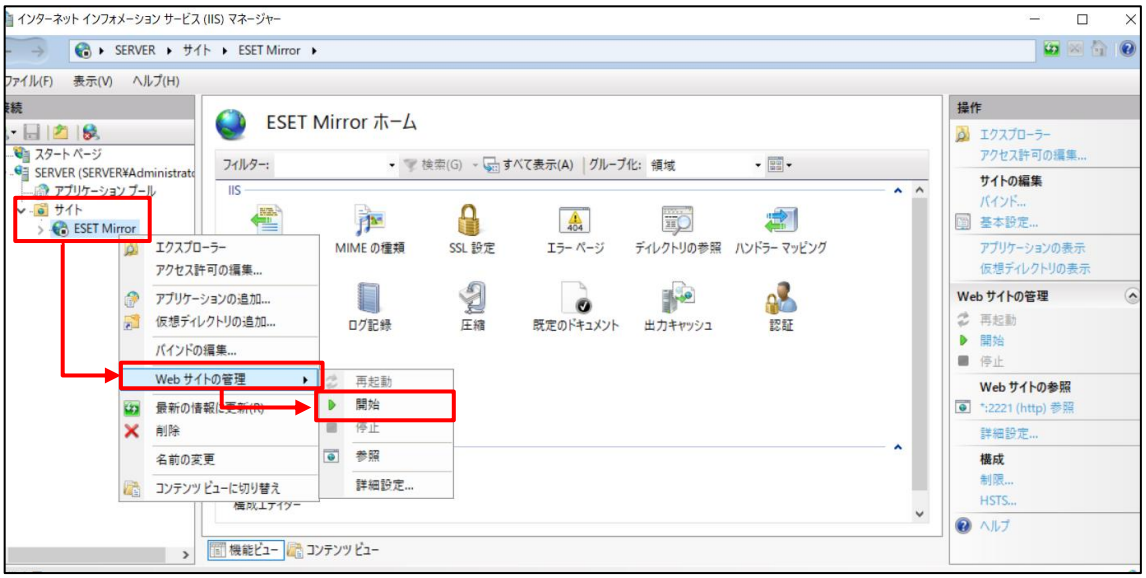


STEP2-5.新ミラーサーバーの起動

1. [スタートメニュー]から[Windows 管理ツール]をクリックして、[インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャー]を起動します



2. STEP2-3 で作成したサイトを右クリックし、[Web サイトの管理]-[開始]をクリックし、サイトを開始します。

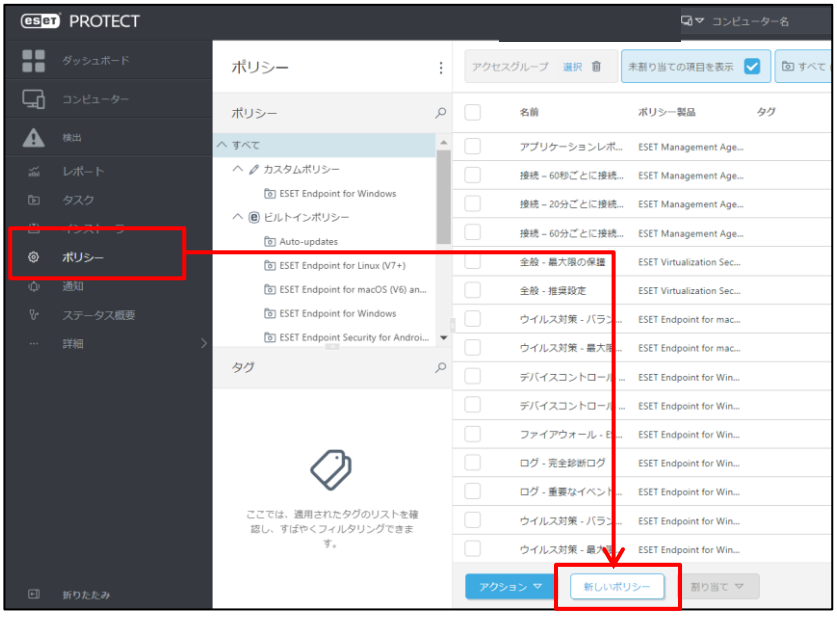


STEP2-6. バージョンアップ前クライアントのアップデート先変更

バージョンアップ前のクライアント用プログラムが STEP2-3 で構築したミラーサーバーから検出エンジンのアップデートができるように、ポリシーを使用してアップデート先を変更します。**また、バージョンアップ後のプログラム用のアップデート先変更ポリシーも事前に作成しておきます。**

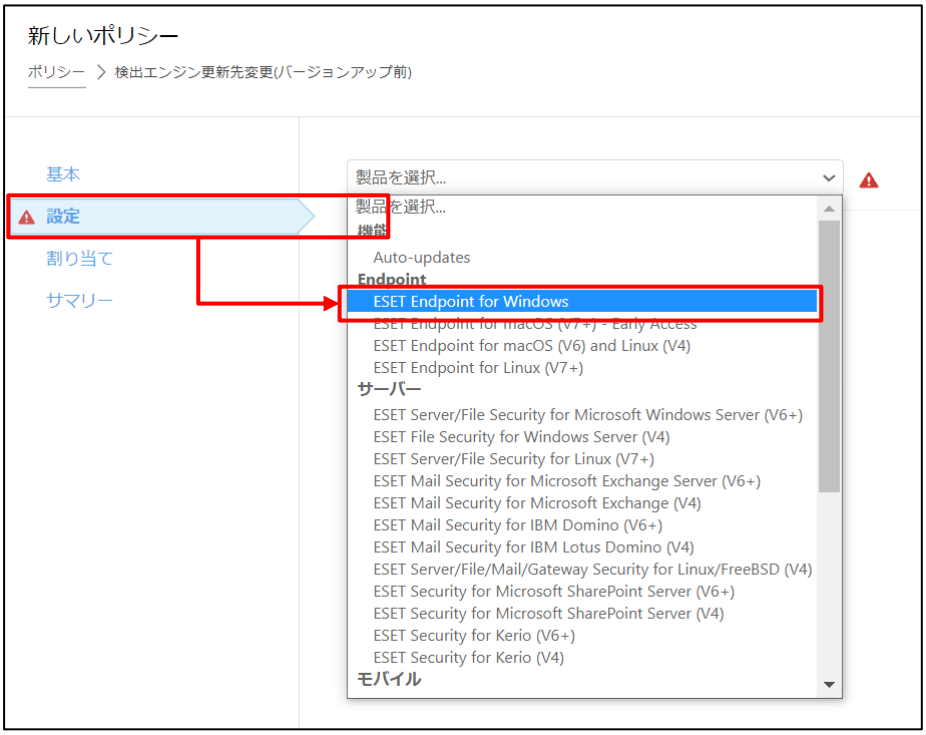
※本手順ではバージョンアップ前プログラム用のポリシーを例に説明します。

1. [ポリシー]より、[新しいポリシー]ボタンをクリックします。



2. [基本]を展開し、任意の名前「例：検出エンジン更新先変更(バージョンアップ前)」を入力します。
※バージョンアップ後プログラム用のポリシーの場合は「例:検出エンジン更新先変更(バージョンアップ後)」と入力してください。
※[説明]の入力は任意です。

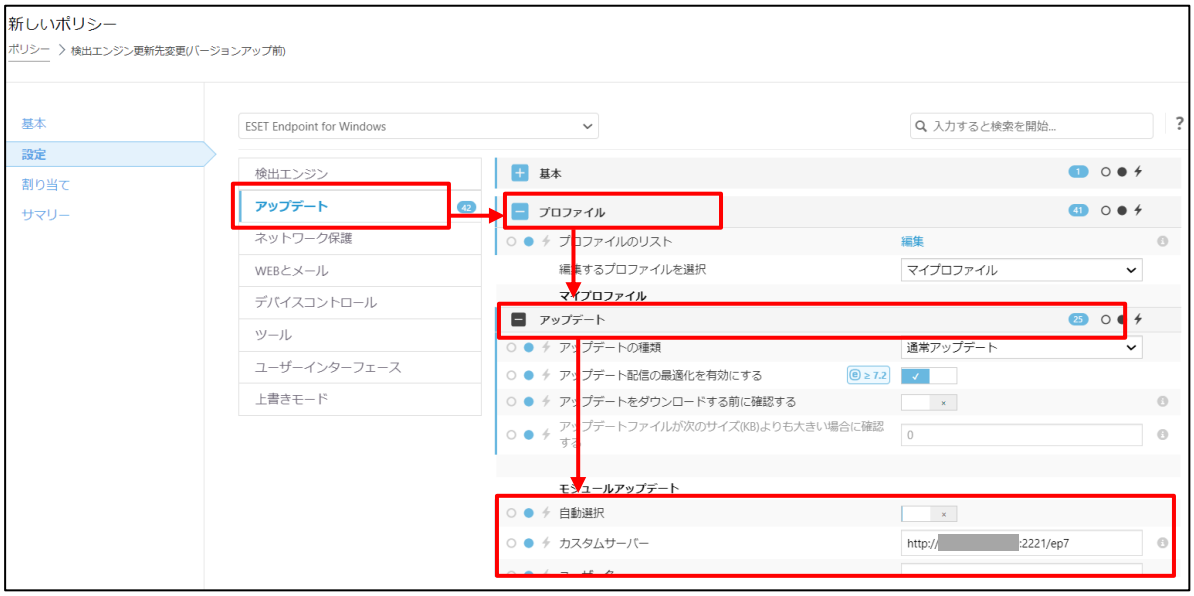
3. [設定]を展開し、製品を選択します。
※本手順では「ESET Endpoint for Windows」を選択します。



4.　[アップデート]-[プロファイル]-[アップデート]と展開し、以下の通り設定します。

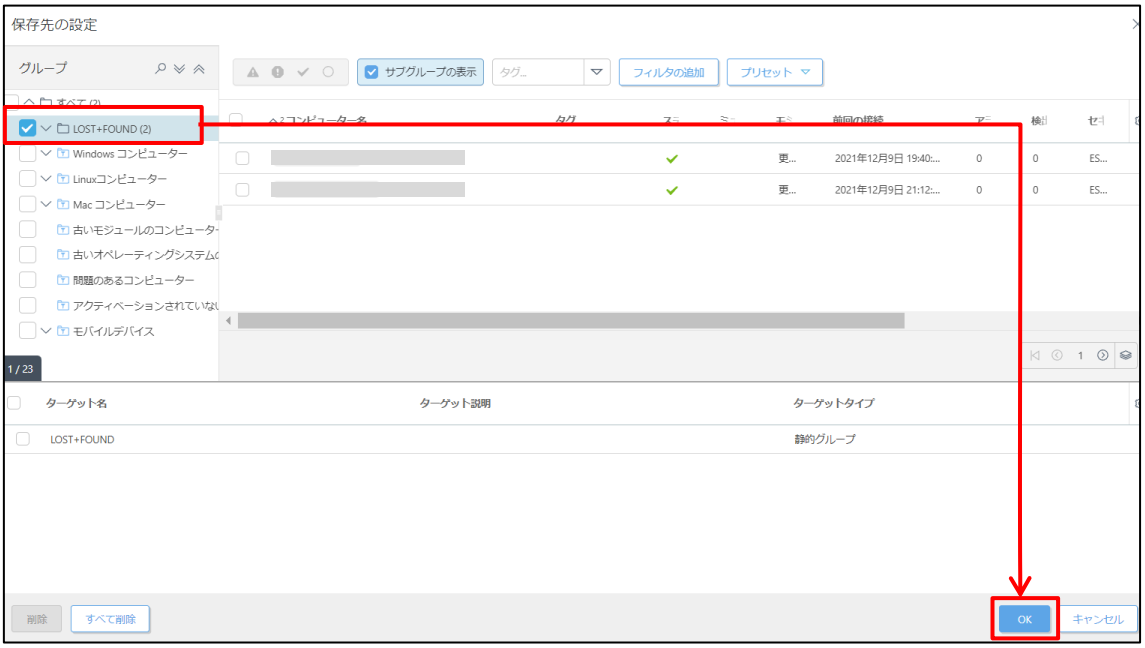
モジュールアップデート	
自動選択	無効
カスタムサーバー	**http://<新バージョン対応ミラーサーバーの IP アドレス>:<ポート>/フォルダー名** ※【STEP2】で新バージョン対応のために構築した <ミラーサーバーIP アドレス> 、<ポート> 、<フォルダー名> を入力してください。

※ポリシー「検出エンジン更新先変更(バージョンアップ前)」の場合(クライアント用プログラムのバージョンが V8/V9)は、フォルダー「ep8」、「ep9」をバージョンごとに指定します。
例) クライアント用プログラムが V8 の場合：http://192.168.1.2:2221/ep8
クライアント用プログラムが V9 の場合：http://192.168.1.2:2221/ep9
※ポリシー「検出エンジン更新先変更(バージョンアップ後)」の場合(クライアント用プログラムのバージョンが V10)は、フォルダー「ep10」を指定します。
例) http://192.168.1.2:2221/ep10

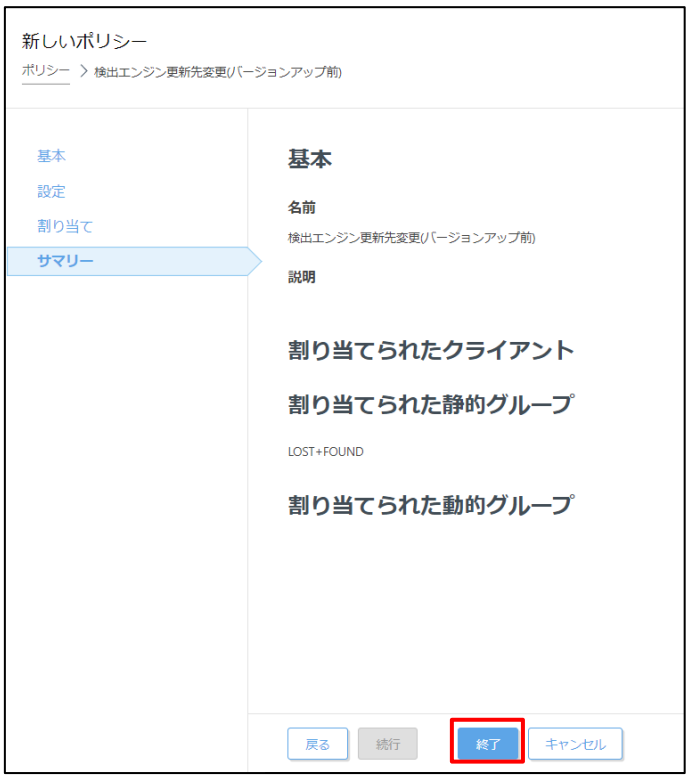


5. [割り当て]を展開し、[割り当て…]ボタンをクリックします。
※ポリシー「検出エンジン更新先変更(バージョンアップ後)」を作成している場合は割り当てを行う必要はありません。後ほど STEP4-1 で作成する動的グループに割り当てを行います。

6. バージョンアップ前のクライアントが所属するグループを選択し、[OK]ボタンをクリックします。
※ここでは「LOST+FOUND」グループを選択します。



7. [サマリー]の内容を確認し、[終了]ボタンをクリックします。



しばらくすると、ポリシーが適用されます。

以上で、新バージョンに対応したミラーサーバーからのアップデート準備は完了です。

<参考>

サーバー用プログラムの ESSW(管理ツールにインストールされているプログラムを除く)も管理している場合は、以下ご注意のうえ、ポリシーを作成してください。

① STEP2-6 のポリシー作成時の手順 2 では、バージョンアップするサーバー用プログラムのためのポリシーであることが分かるような名前を入力してください。

② STEP2-6 のポリシー作成時の手順 3 では、製品で「ESET Server Security for Windows Server(V6+)」を選択します。

6.【STEP3】サーバーのバージョンアップ

サーバーにインストールされているセキュリティ管理ツールと ESSW をバージョンアップします。

STEP3-1.動作要件の確認

バージョンアップの前に、EP V10.X と ESSW V10.X の動作要件を確認します。

＜ESET PROTECT 動作要件＞
https://eset-info.canon-its.jp/business/ep/#spec

＜ESET Server Security for Microsoft Windows Server 動作要件＞
・ESET PROTECT Entry オンプレミス(旧名称：ESET Endpoint Protection Advanced)をご利用のお客様
https://eset-info.canon-its.jp/business/ep-entry-o/spec.html
・ESET PROTECT Essential オンプレミス(旧名称：ESET Endpoint Protection Standard)をご利用のお客様
https://eset-info.canon-its.jp/business/ep-essential-o/spec.html

＜参考＞

EP V8.X 以降では、64bit 版の Java が必要です。
Oracle 社提供の Java Runtime Environment 8 は公式アップデートを終了しております。
公式アップデートが終了された後もセキュリティ管理ツールをご利用いただくことはできますが、新たなセキュリティパッチなどを含むアップデートは提供されないため、有償の JRE もしくは、無償のオープンソース JDK のご利用（移行）を推奨しています。

なお、EP V9.1 以降では Java17 のみ対象となりますのでご注意ください。
ご利用のソフトウェアが動作環境のバージョンを満たしているかご確認ください。バージョンアップが必要な場合は、Java17 を新規でインストールし、バージョンアップ完了後に不要になった古いバージョンの Java のアンインストールをお願いいたします。

＜参考＞

EP V8.X 以降では、Apache Tomcat 9(64bit)が必要です。
32bit 版を利用している場合は、32bit 版をアンインストール後、64bit 版をインストールしてからオンプレミス型セキュリティ管理ツールのバージョンアップを実施してください。
Apache Tomcat のバージョンアップ方法については、以下 URL をご参照ください。
＜Apache Tomcat のバージョンアップ方法＞
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/24431?site_domain=business

＜参考＞

Microsoft SQL Server 2012 以前のデータベースをご利用の場合は、先に Microsoft SQL Server 2014 以降へアップグレードしたうえで、サーバーのバージョンアップを実施してください。

＜参考＞

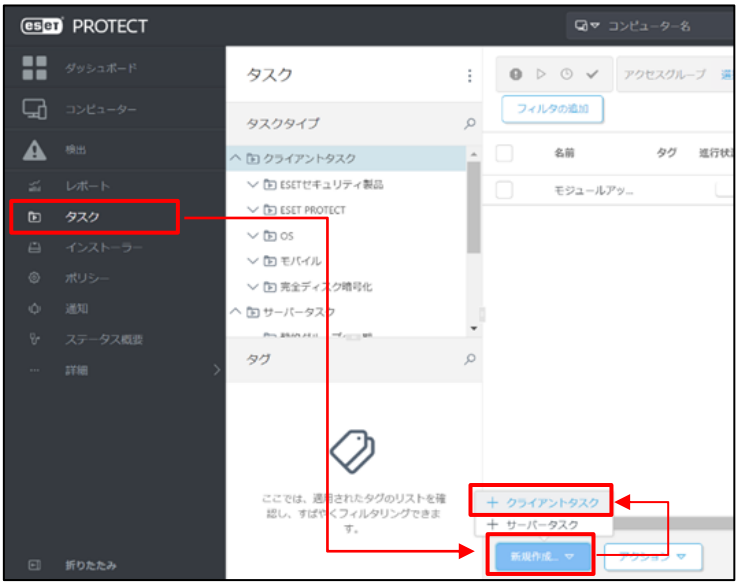
EP V10.X では Apache HTTP Proxy もしくは ESET Bridge の利用が可能です。
既に Apache HTTP Proxy が導入されている環境で、オールインワンインストーラーを使用してバージョンアップを行う際は、これまでと同様 Apache HTTP Proxy が自動的に利用されます。
ESET Bridge を利用する場合は、事前に ESET Bridge をインストールしてください。
（オールインワンインストーラーを使用して ESET Bridge をインストールする際は、Apache HTTP Proxy は自動的にアンインストールされます。）
＜ESET Bridge 概要＞
https://help.eset.com/ebe/1/ja-JP/

STEP3-2. ESET Server Security for Microsoft Windows Server のバージョンアップ

※ESSW V8.X/V9.X をご利用の場合は以下の手順を実施します。すでに ESSW V10.X(最新バージョン)をご利用いただいている場合は STEP３-3 へ進みます。

1. EP Web コンソール を起動して、ESET PROTECT に接続します。
   ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。
   ※EP Web コンソールには以下の URL よりアクセスできます。
   https:// ＜管理サーバーのサーバー名、または、IP アドレス＞/era/

2. [タスク]より、[新規作成]をクリックし、[クライアントタスク]を選択します。

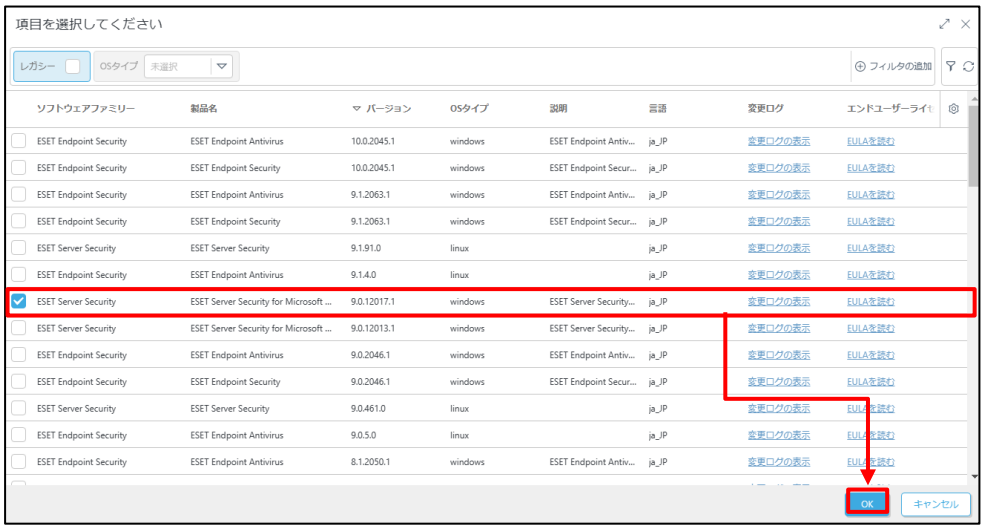


3. [基本]を展開し、以下の通り設定します。

名前	任意の名前(例：ESSW バージョンアップタスク)
説明	任意で入力
タスク分類	すべてのタスク
タスク	ソフトウェアインストール

4. [設定]を展開して「リポジトリからパッケージをインストール」を選択し、「＜パッケージの選択＞」をクリックします。

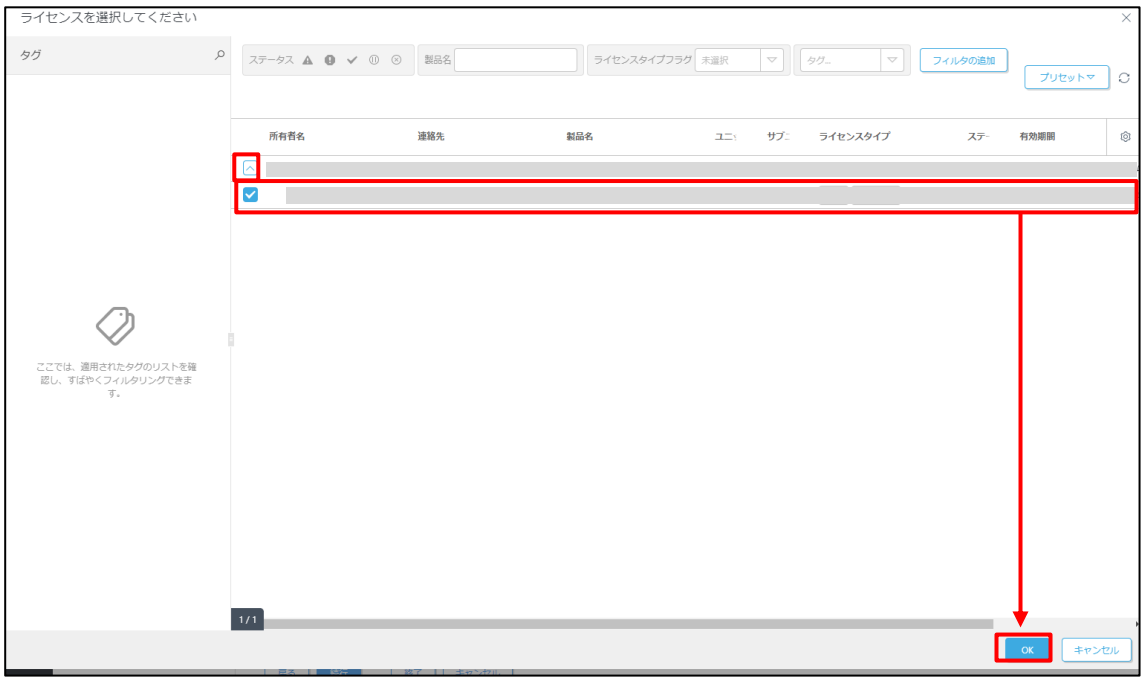
5. 「ESET Server Security for Microsoft Windows Server」の最新バージョンを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



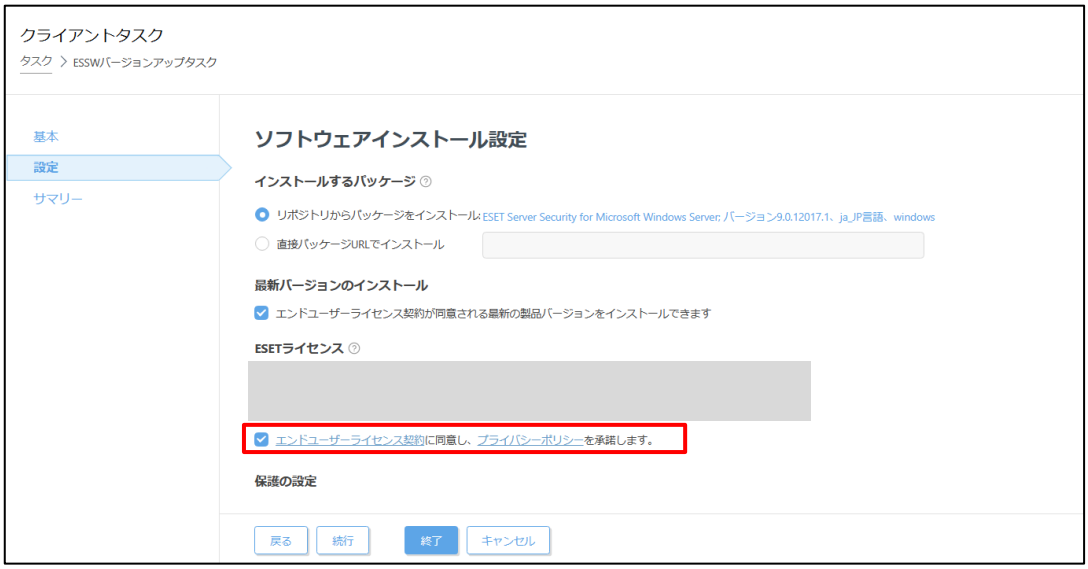
※画像では例として ESSW V9.0 を選択しています。

6. 「ESET ライセンス<選択>」をクリックします。

7. [^]を展開し、ご利用ライセンスを選択のうえ、[OK]ボタンをクリックします。
※ライセンスを指定してタスクを作成した際にエラーが発生した場合は、本手順でライセンスを指定せずにタスクを作成し実行してください。



8. 「アプリケーションのエンドユーザー使用許諾契約の条項に同意し、プライバシーポリシーを確認します。」にチェックを入れます



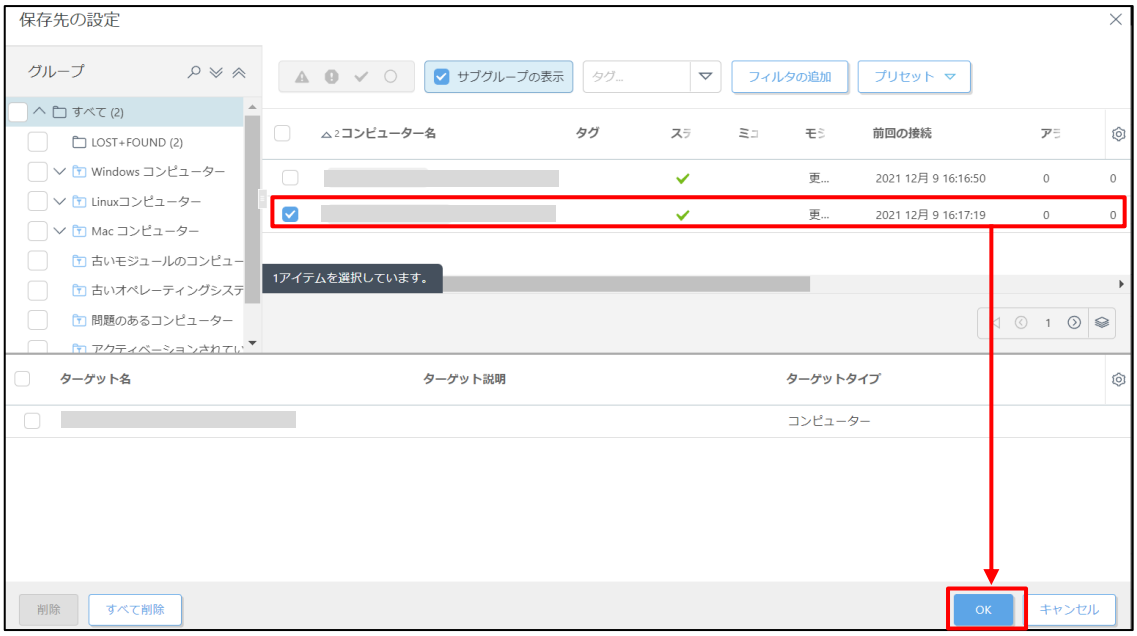
9. 「サマリー」の内容を確認し、問題なければ[終了]ボタンをクリックします。

10. 以下の画面が表示されたら、[トリガーの作成]ボタンをクリックします。

11. [基本]を展開し、任意のトリガーの説明(例：ESSW バージョンアップトリガー)を入力します。

12. [対象]を展開し、「ターゲットの追加」をクリックします。

13. ESSW がインストールされている管理兼ミラーサーバーを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



14. [トリガー]を展開し、「トリガータイプ」を選択します。[終了]ボタンをクリックします。
※本手順書では「即時」を選択します。

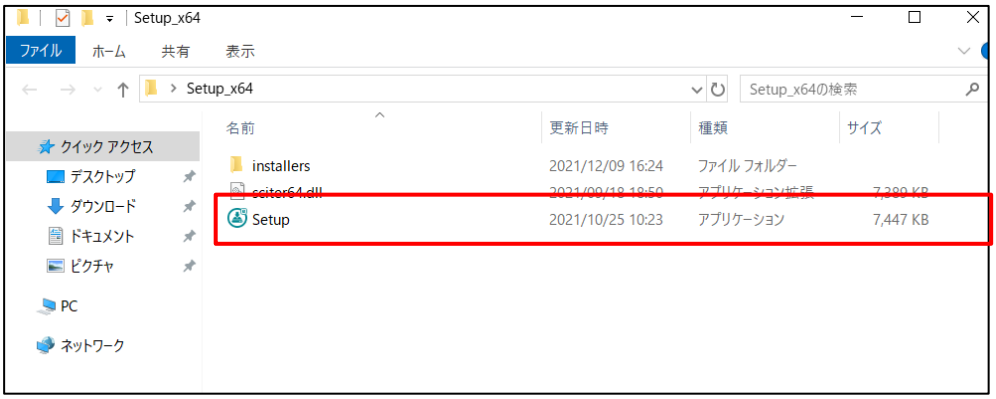
15. 「コンピューター」より、タスクを実行した管理兼ミラーサーバーのプログラムのバージョンがバージョンアップしていることをご確認ください。
※「再起動」を促すアラートが赤く表示されますが、次の STEP3-3 を実行後に再起動いたします。

STEP3-3. ESET PROTECT のバージョンアップ

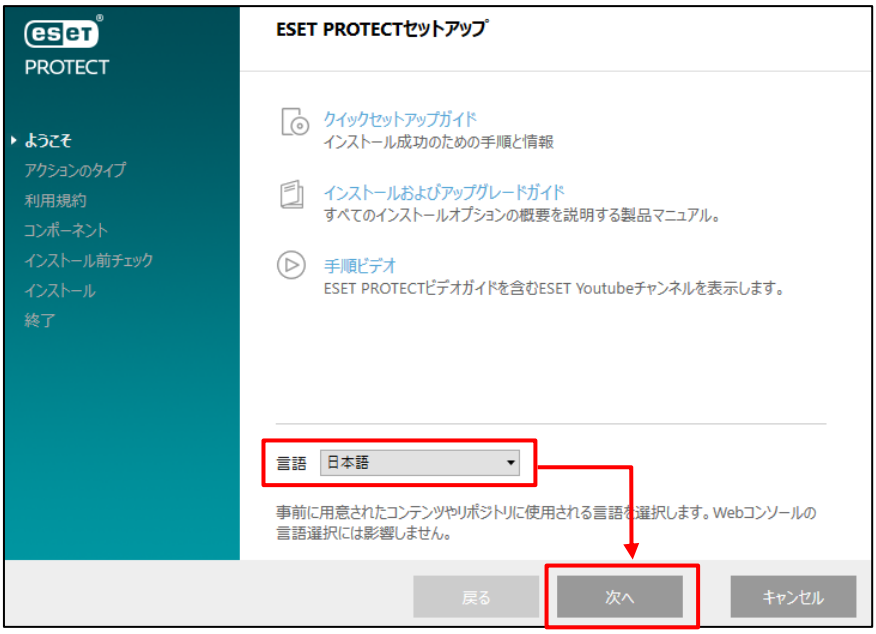
1. ユーザーズサイトより、「ESET PROTECT [Ver 10.X.XX.X]」のオールインワンインストーラーをダウンロードします。

   [ユーザーズサイト]
   https://canon-its.jp/product/eset/users/index.html
   ※ユーザーズサイトにログインするにはシリアル番号とユーザーズサイトパスワードが必要です。
   ※ユーザーズサイトで[プログラム/マニュアル]-[オンプレミス型セキュリティ管理ツール(ESET PROTECT)]-[ESET PROTECT]と進むとオールインワンインストーラーがあります。

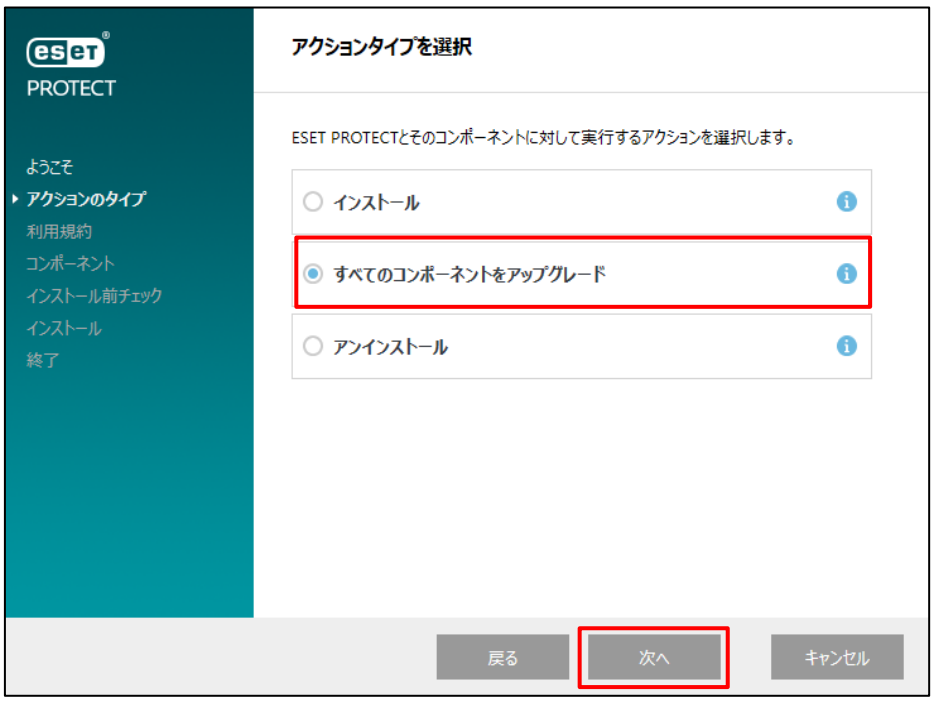
2. ユーザーズサイトからダウンロードした「Setup_x64.zip」をサーバー上で展開し、「Setup.exe」をダブルクリックで実行します。



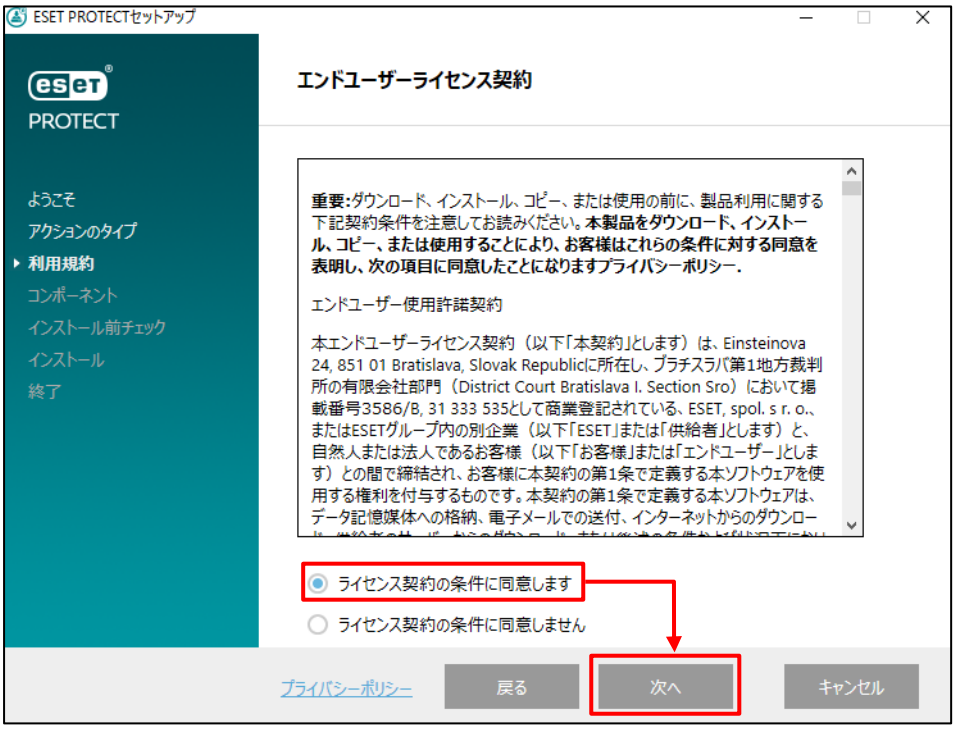
3. 言語で「日本語」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



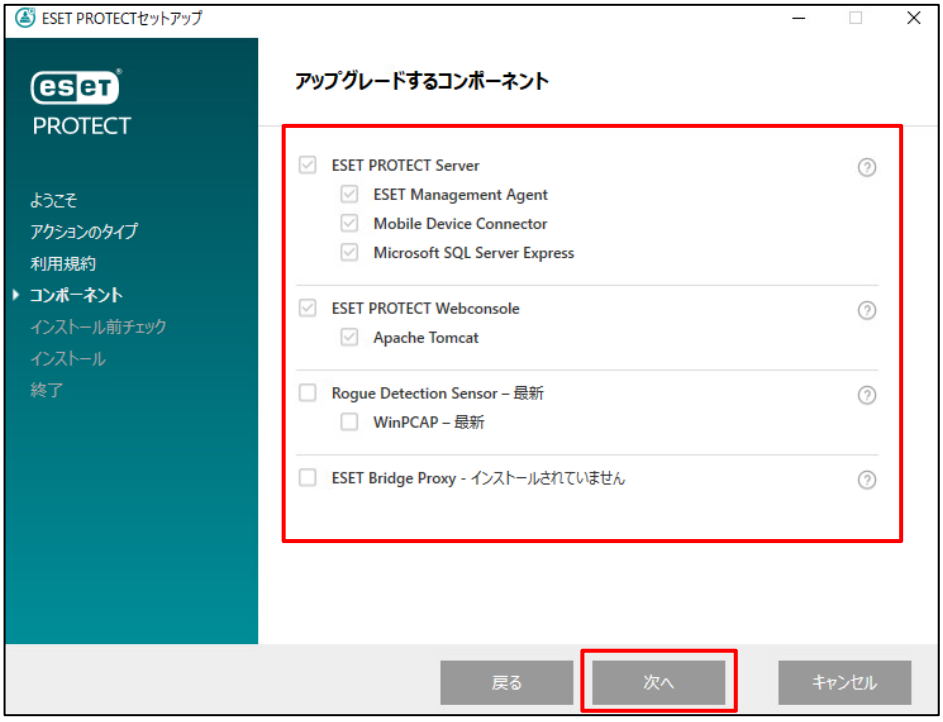
4. 「すべてのコンポーネントをアップグレード」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



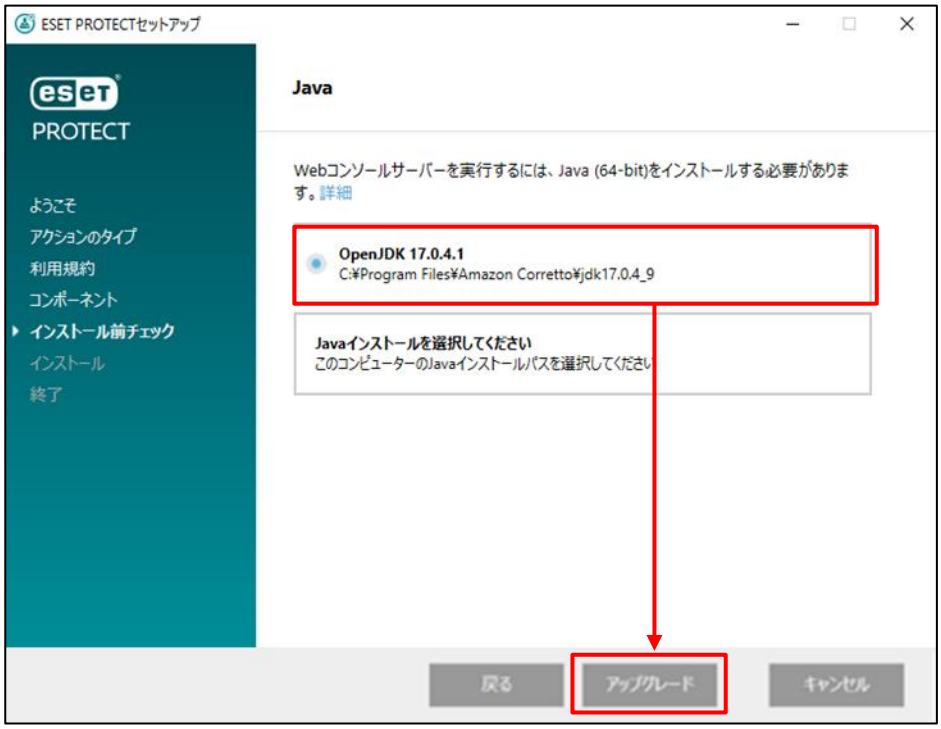
5. エンドユーザーライセンス契約に同意したら、「ラインセンス契約の条件に同意します」を選択し、「次へ」をクリックします。



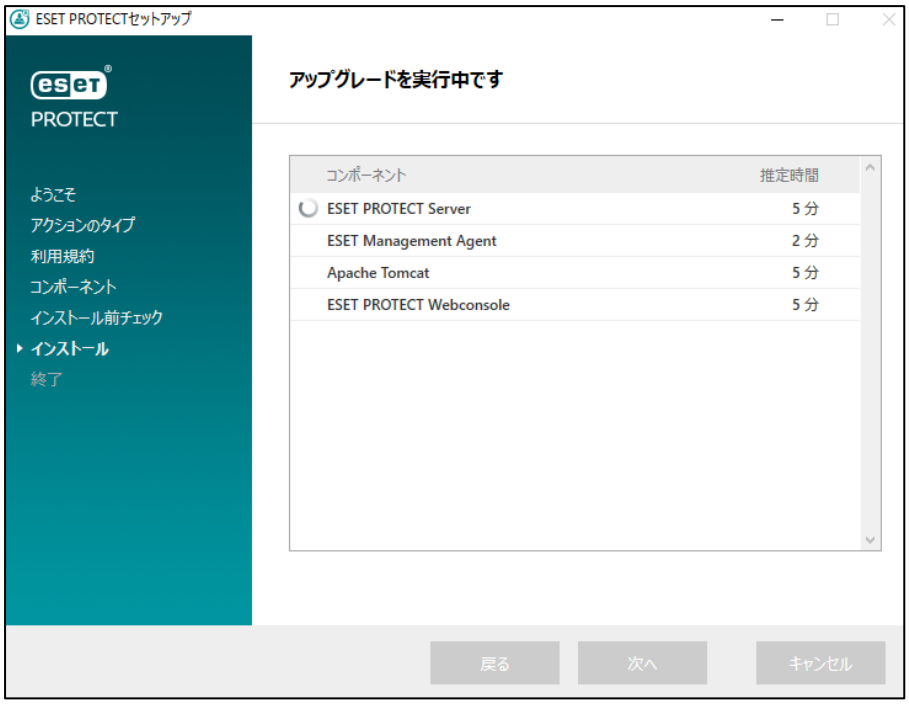
6. アップグレードするコンポーネントを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。
※EP V9.1 以前で利用しているコンポーネントがアップグレードされます。



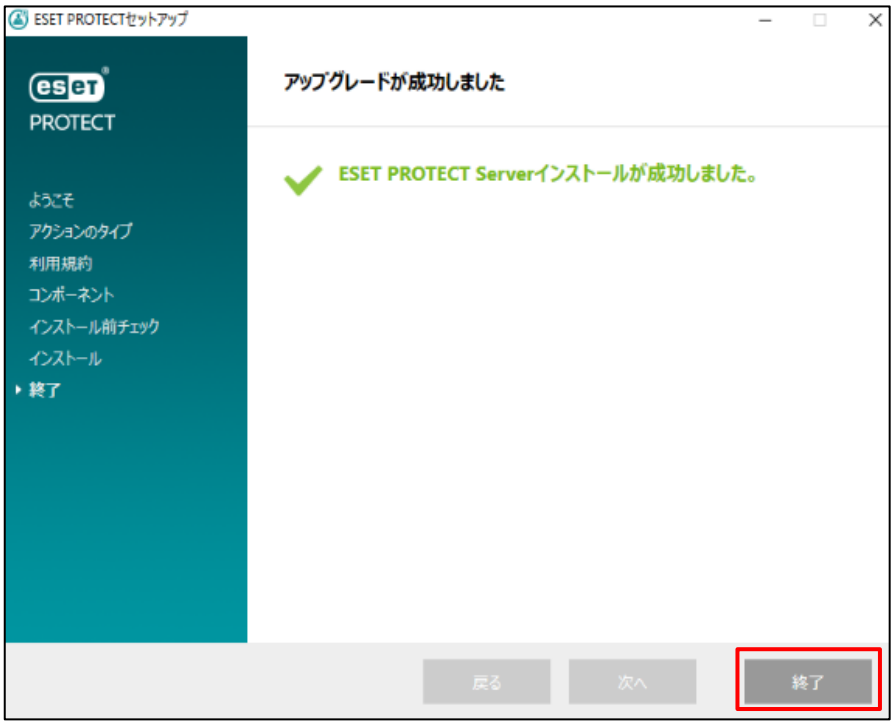
7. ご利用の Java を選択します。Amazon Corretto を利用している場合は、「OpenJDK」を選択し、[アップグレード]ボタンをクリックします。



8. アップグレードが実行されます。



9. アップグレードが完了したら、以下の画面が表示されます。[終了]ボタンをクリックします。



10. 再起動します。

11. EP Web コンソール を起動して、ESET PROTECT に接続します。
ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。
※EP Web コンソールには以下の URL よりアクセスできます。
https://＜管理サーバーのサーバー名、または、IP アドレス＞/era/

12. 以下の画面が表示されたら、「×」で閉じます。

13. 「コンピューター」より、管理兼ミラーサーバーの再起動アラートが消えていることを確認します。
※他の原因でアラートが表示されている場合は、適宜ご対応ください。

14. 右上の「ヘルプ」-「バージョン情報」をクリックします。

15. 「ESET PROTECT (Server)」と「ESET PROTECT (Web コンソール)」バージョンが、「10.X」であることを確認します。

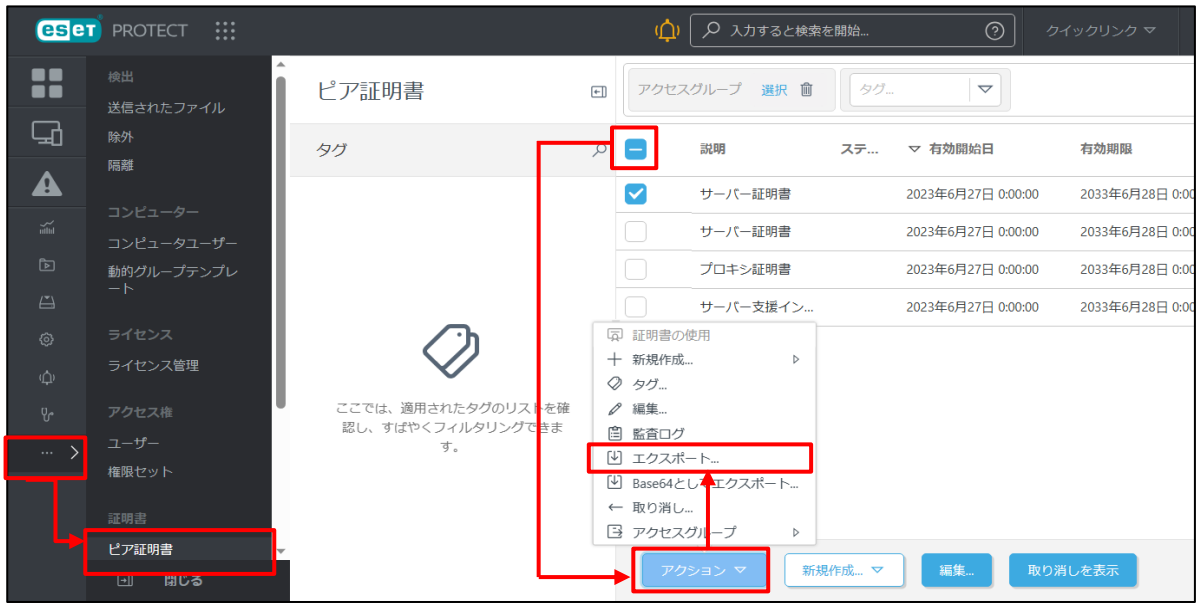
STEP3-4. データベースのバックアップ

【STEP1】ESET PROTECT サーバーのバックアップと同様の方法で、再度 ESET PROTECT のデータベースとコンフィグレーションのバックアップを取得してください。
※バックアップ取得時には、ESET PROTECT サービスを停止する必要がありますのでご注意ください。

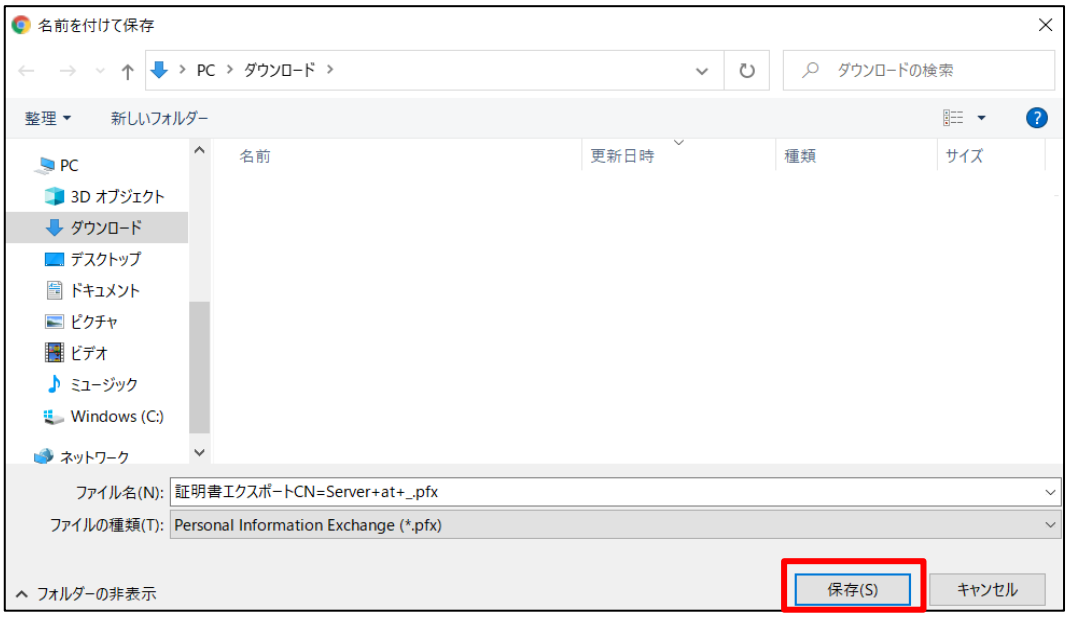
STEP3-5. ピア証明書と認証局のバックアップ

ESET PROTECT と EM エージェントの接続に使用しているピア証明書と認証局をエクスポートして、バックアップを取得します。

1. [詳細]-[ピア証明書]より、エクスポートを行う証明書を選択し、[アクション]より[エクスポート]をクリックします。

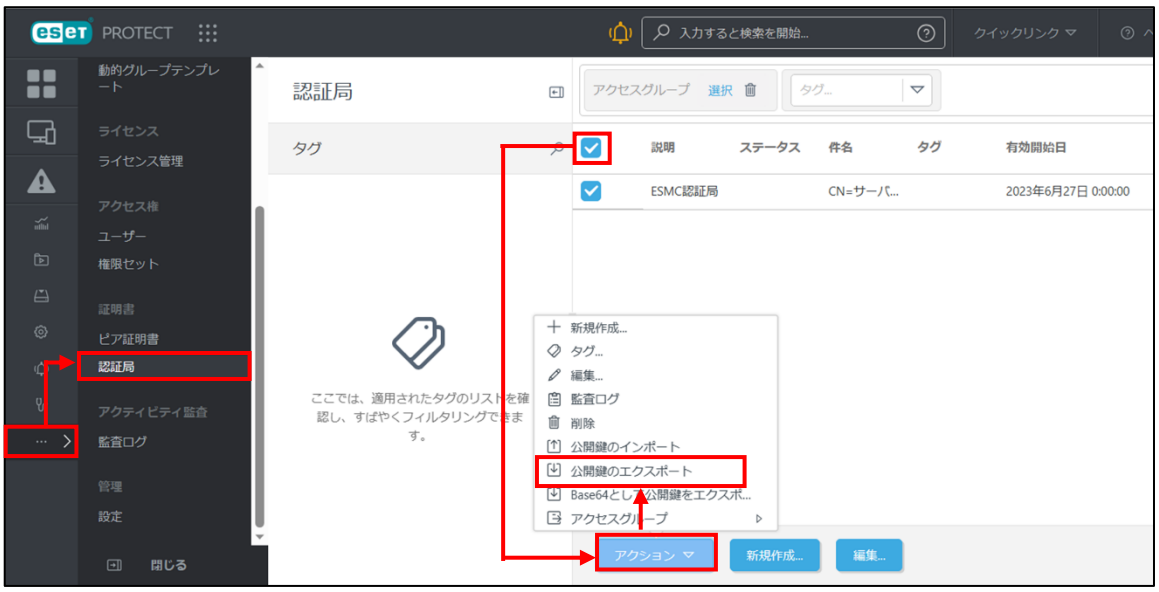


2. エクスポートした証明書を任意の保存先に保存します。

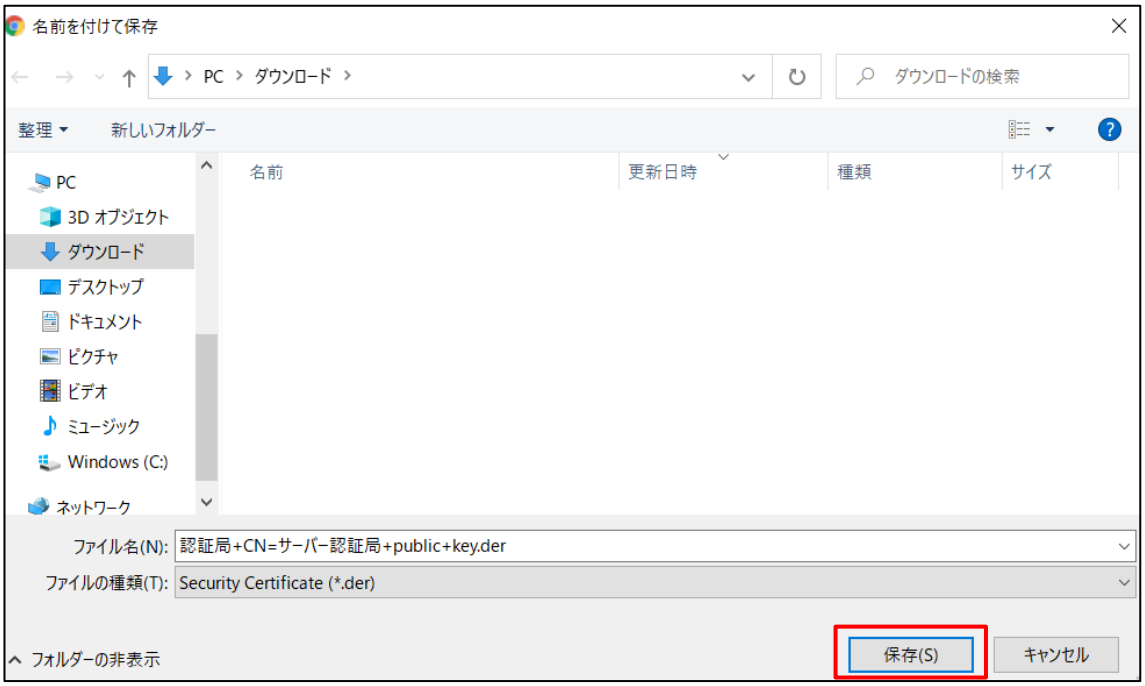


3. 手順 1～2 を繰り返し、各証明書のエクスポートを行います。

4. [詳細]-[認証局]より、エクスポートを行う認証局を選択し、[アクション]より[公開鍵のエクスポート]をクリックします。



5. エクスポートした公開鍵(認証局)を任意の保存先に保存します。



<参考>

不具合に伴うサーバーの再構築やリース切れに伴うサーバーのリプレースや増設をおこなう場合、クライアント端末の接続先を変更するため、旧サーバーのサーバー証明書や認証局を新サーバーにインポートする必要があります。
＜新しく移行したオンプレミス型セキュリティ管理ツールへ接続するには？＞
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/13248?site_domain=business

以上で、サーバーのバージョンアップは完了です。

7.【STEP4】 クライアントのバージョンアップ事前準備

STEP5 以降で、管理しているクライアント用プログラムとエージェントを V10.X にバージョンアップした後、自動で端末が振り分けられるバージョンアップ完了確認用のグループをそれぞれ作成します。また、STEP2-3 で作成したミラーサーバーからのアップデートに自動的に変更できるよう、作成した動的グループに STEP2-6 で作成したポリシーを配布します。

STEP4-1. バージョンアップ完了確認用の動的グループ作成

※本資料では、EM エージェントのバージョンアップ完了確認用の動的グループを例に説明します。以下の手順を参考に、クライアント用プログラムのバージョンアップ完了確認用のグループも別途作成してください。

1. EP Web コンソール を起動して、ESET PROTECT に接続します。
   ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。
   ※EP Web コンソールには以下の URL よりアクセスできます。
   https:// <管理サーバーのサーバー名、または、IP アドレス> /era/

2. 「コンピューター」より、バージョンアップを行うクライアント端末が所属する静的グループを選択し、[歯車]-[新しい動的グループ...]をクリックします。
※本手順では、既定でクライアントが所属する「LOST+FOUND」を選択します。

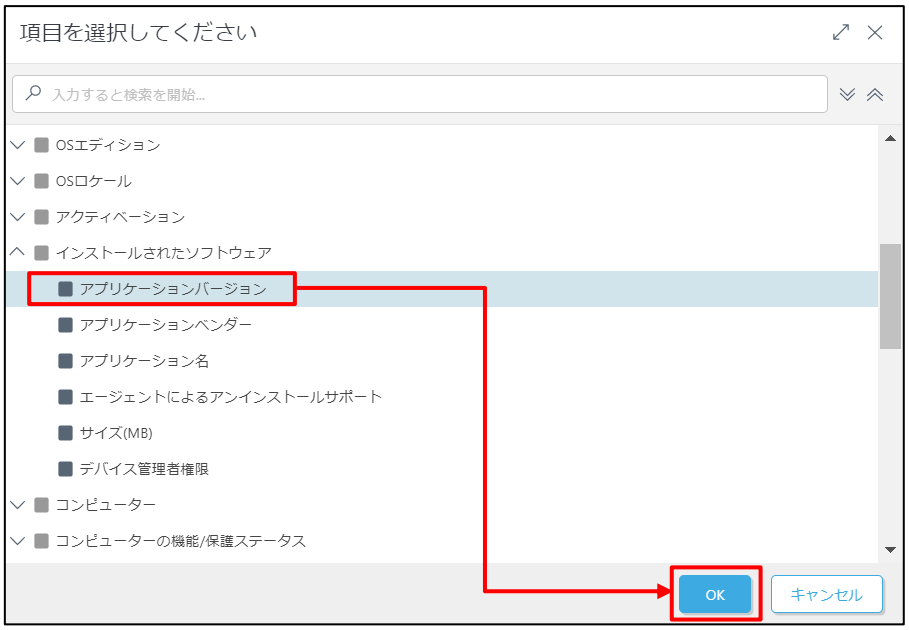
3. [基本]を展開し、任意の名前(例：EM エージェントバージョンアップ完了グループ)を入力します。
※クライアント用プログラムのバージョンアップ完了確認用の動的グループを作成する場合は、「例:クライアント用プログラムバージョンアップ完了グループ」と入力します。
※「説明」の入力は任意です。

4. [テンプレート]を展開し、[新規作成]ボタンをクリックします。

5. [基本]を展開し、任意の名前(例：EM エージェント自動振り分けテンプレート)を入力します。
※クライアント用プログラムバージョンアップ完了グループ作成の場合は、「例：クライアント用プログラムバージョンアップ完了自動振り分けテンプレート」を入力します。
※「説明」の入力は任意です。

6. [式]を展開し、処理に「AND(すべての条件が真であること)」を選択します。
「ルールの追加」をクリックします。

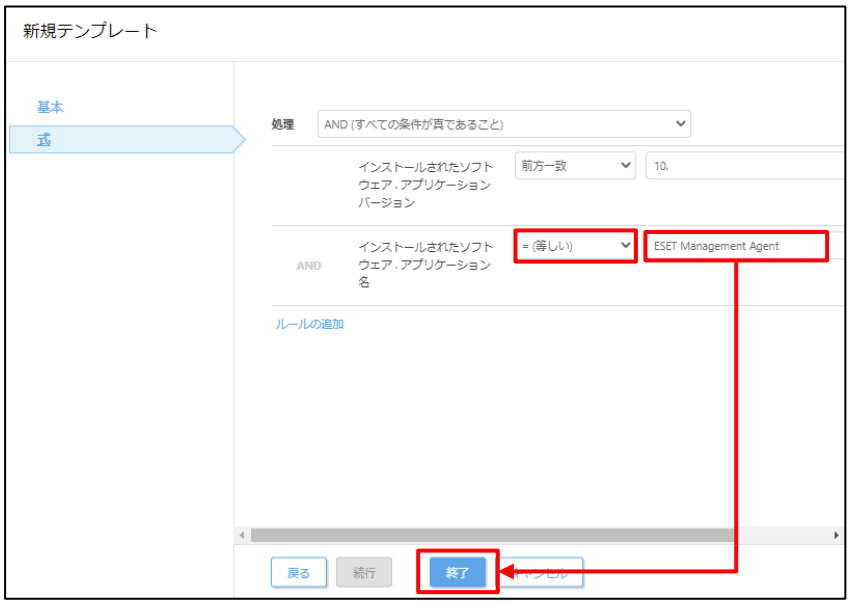
7. 「インストールされたソフトウェア」-「アプリケーションバージョン」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



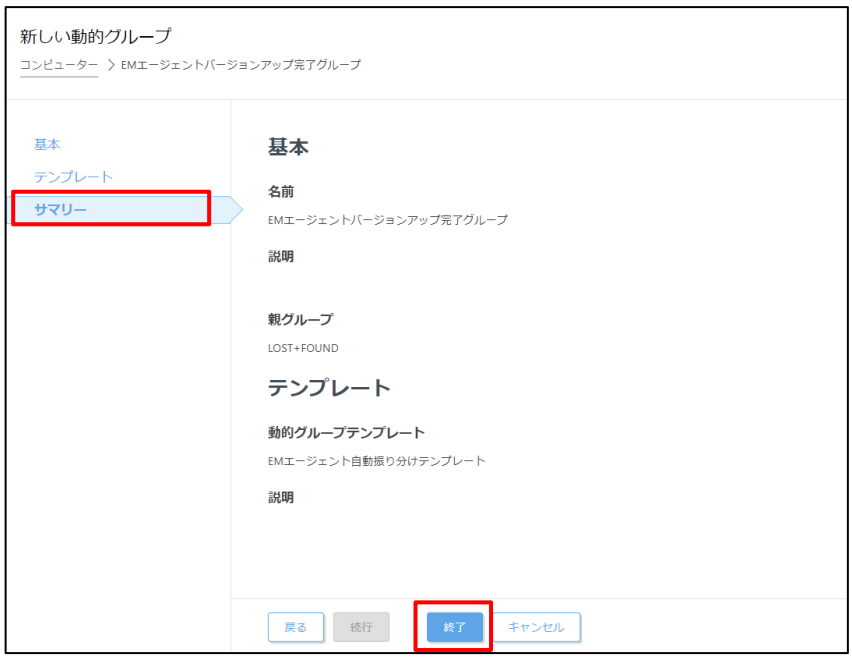
8. 「前方一致」を選択し、条件に「10.」と入力します。
「ルールの追加」をクリックします。

9. 「インストールされたソフトウェア」-「アプリケーション名」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

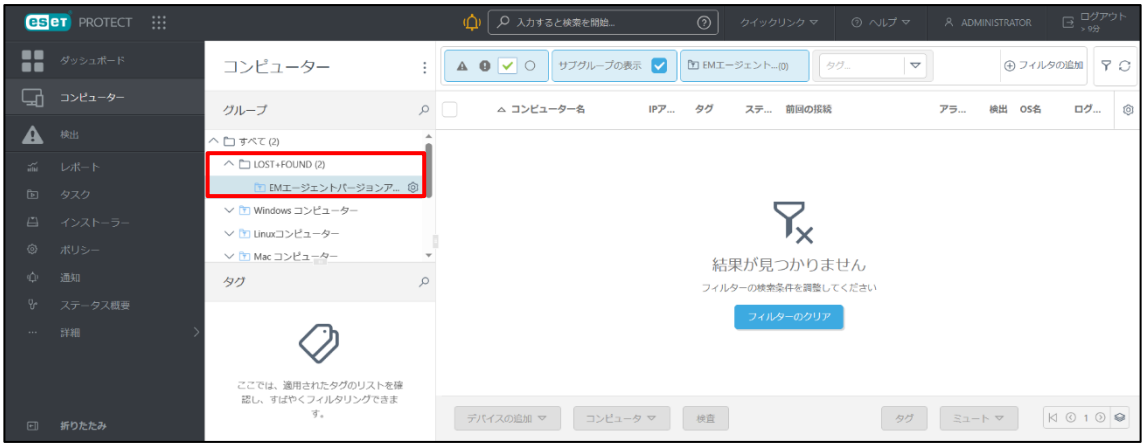
10. 「=(等しい)」を選択し、条件に「ESET Management Agent」を入力します。
「手順 8 で設定した条件」と「本手順 10 で設定した条件」の 2 つが指定されていることを確認し、[終了]ボタンをクリックします。
※クライアント用プログラムのバージョンアップ完了を確認する動的グループを作成する場合は、条件に「ESET Endpoint Security」または「ESET Endpoint Antivirus」を入力します。
※ESET Server Security for Microsoft Windows Server(管理ツール以外にインストールされている場合)のバージョンアップ完了を確認する動的グループを作成する場合は、「ESET Server Security」を入力します。



11. 「サマリー」の内容を確認し、問題がなければ[終了]ボタンをクリックします。



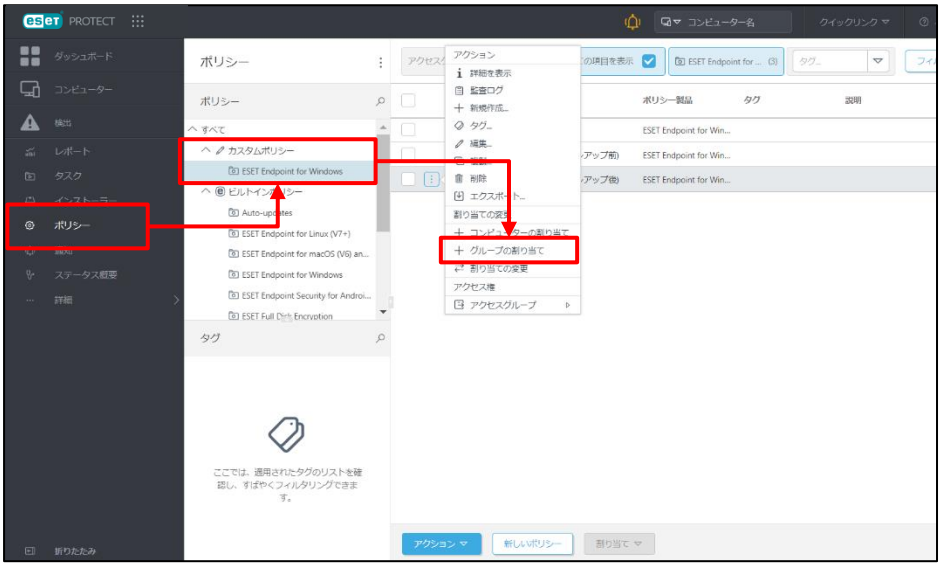
12. バージョンアップするクライアント端末が所属する静的グループ下に、作成した動的グループがあることを確認します。



STEP4-2. 動的グループへのポリシー適用

バージョンアップが完了したクライアント用プログラムが、STEP2-3 で構築した新ミラーサーバーの新バージョン用フォルダー(ep10)から自動で検出エンジンのアップデートができるように、STEP4-1 で作成した動的グループにポリシーを割り当てておきます。

1. [ポリシー]-[カスタムポリシー]より、STEP2-6 で作成した**「検出エンジン更新先変更(バージョンアップ後)」**を選択し、「＋グループの割り当て」をクリックします。



2. 「STEP4-1」で作成した動的グループ「クライアント用プログラムバージョンアップ完了グループ」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

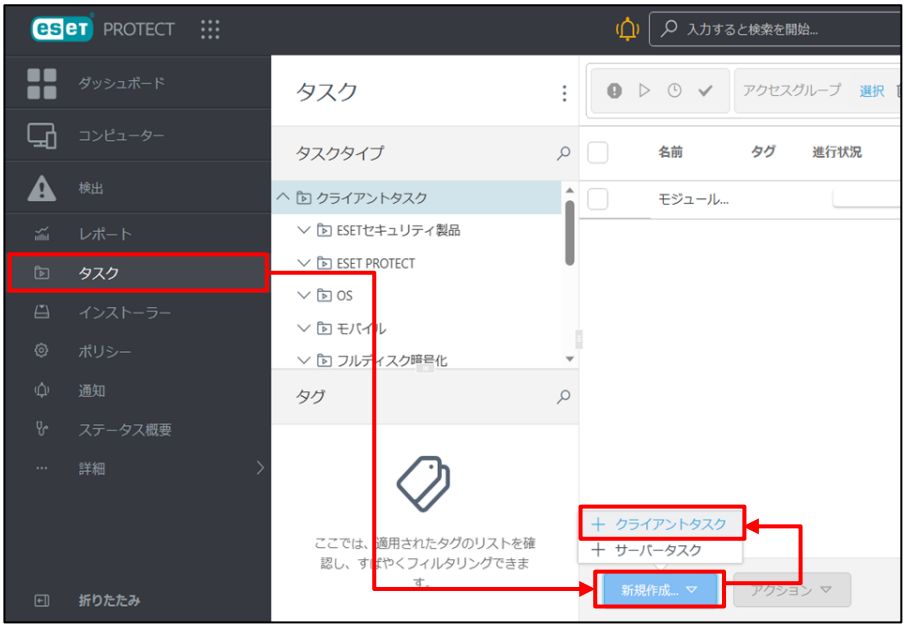
8.【STEP5】EM エージェントのバージョンアップ

クライアント端末の EM エージェント V9.1 以前を V10.X にバージョンアップします。

STEP5-1. クライアントの EM エージェントをバージョンアップ

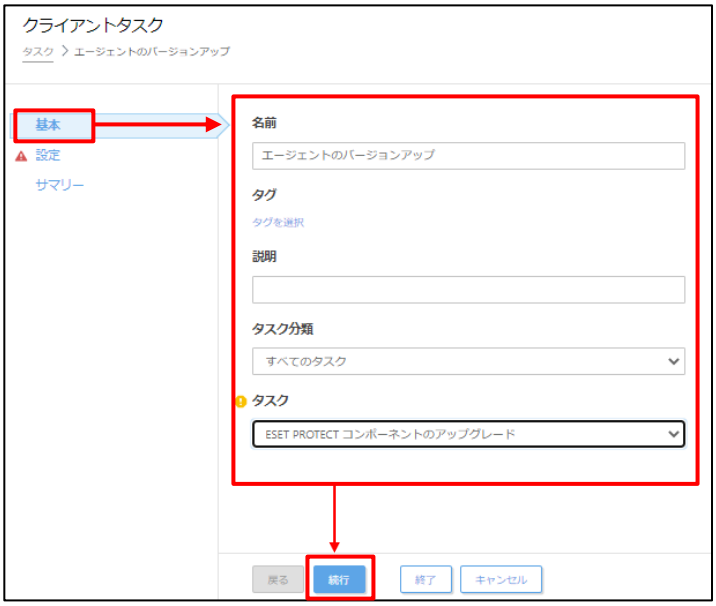
1. EP Web コンソール を起動して、ESET PROTECT に接続します。
   ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。
   ※EP Web コンソールには以下の URL よりアクセスできます。
   https://＜管理サーバーのサーバー名、または、IP アドレス＞/era

2. [タスク]-[新規作成]-[クライアントタスク]をクリックします。



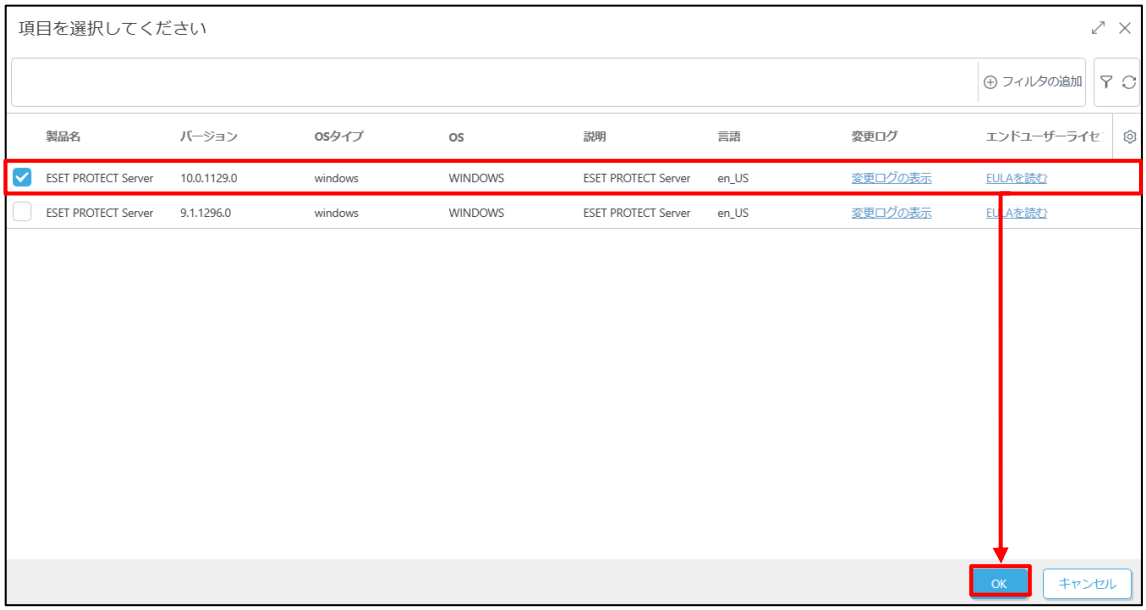
3. [基本]を展開し、以下のとおり設定します。[続行]ボタンをクリックします。

名前	任意の名前(例：エージェントのバージョンアップ)
説明	任意の説明
タスク分類	すべてのタスク
タスク	ESET PROTECT コンポーネントのアップグレード



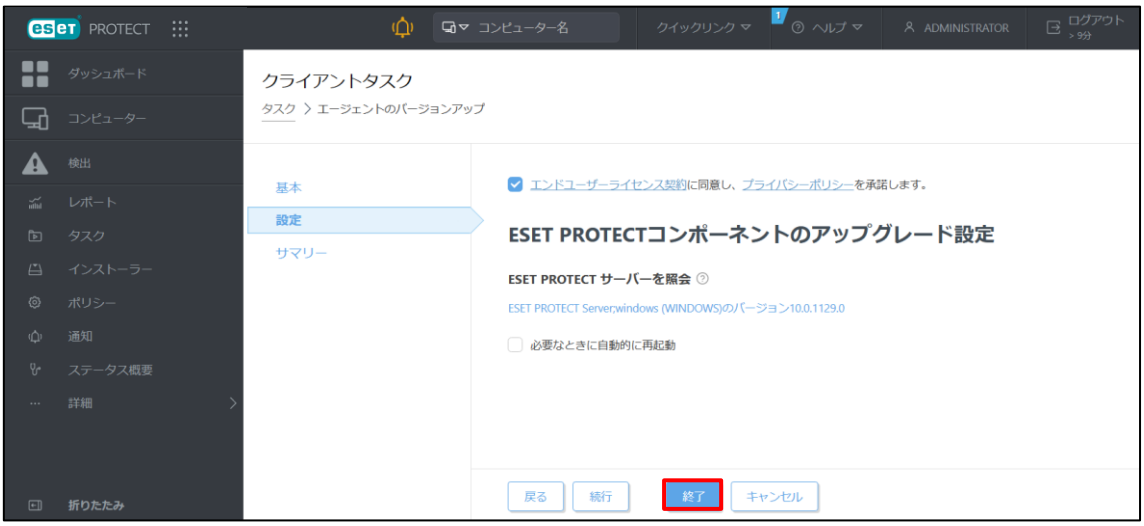
4. 「エンドユーザーライセンス契約に同意し、プライバシーポリシーを承諾します。」にチェックを入れます。
「＜サーバーを選択＞」をクリックします。

5. ESET PROTECT のコンポーネントを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



※画像では例として EP V10.0 を選択しています。

6. [終了]ボタンをクリックします。

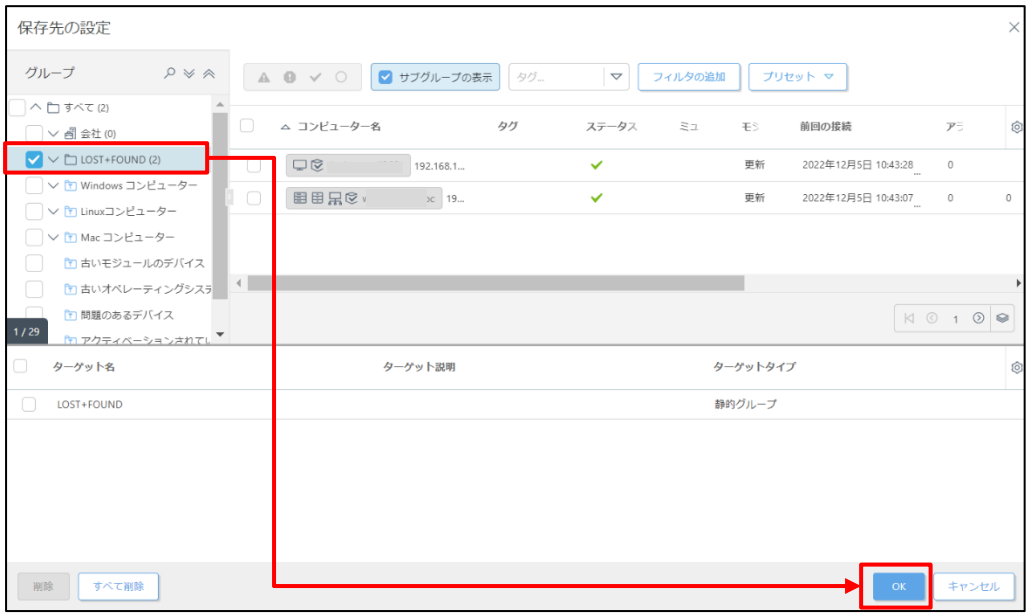


7. 以下の画面が表示されたら、[トリガーの作成]ボタンをクリックします。

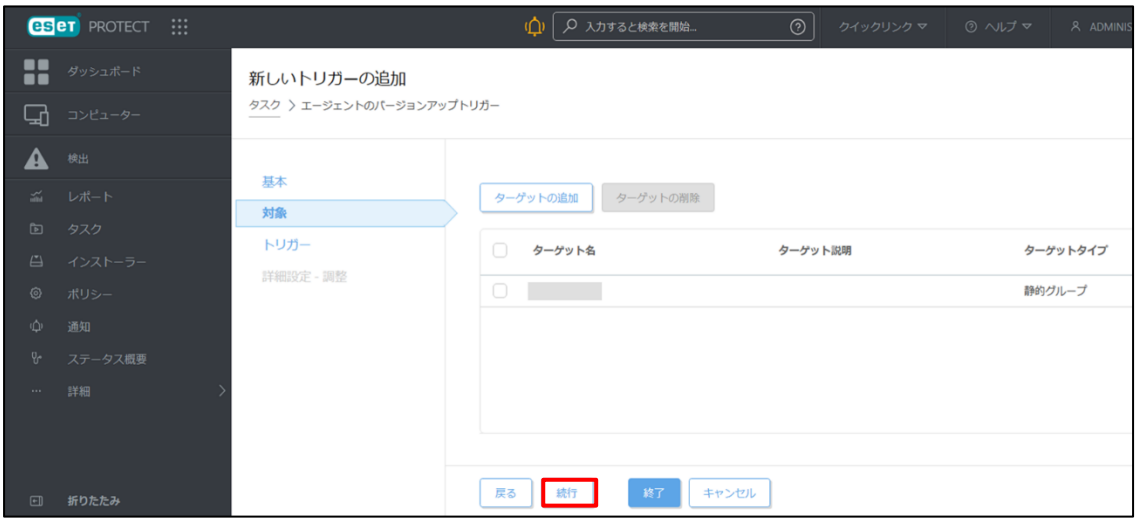
8. [基本]を展開し、任意のトリガー説明(例：エージェントのバージョンアップトリガー)を入力します。
[続行]ボタンをクリックします。

9. [対象]を展開し、「ターゲットの追加」をクリックします。

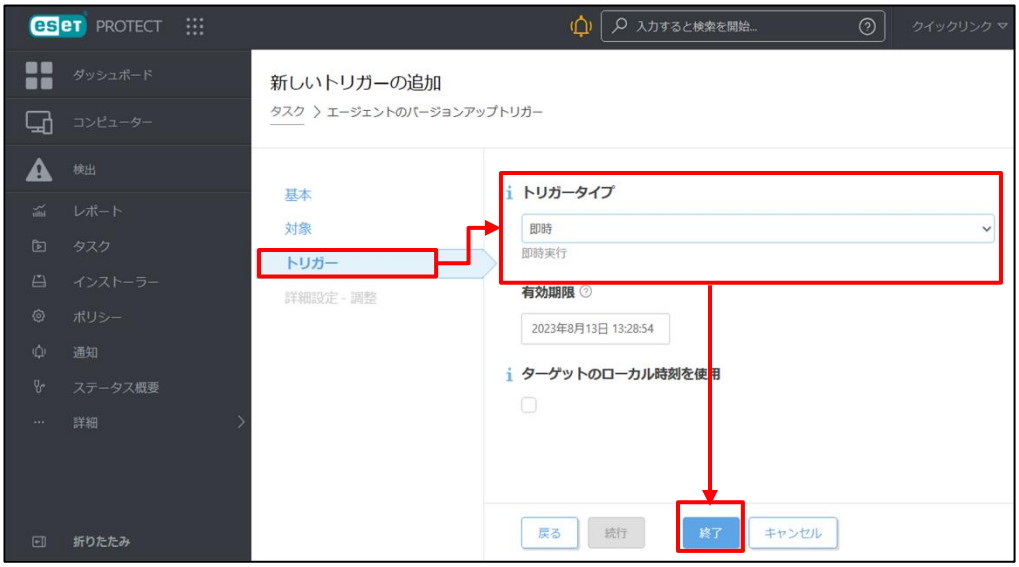
10. EM エージェントのバージョンアップを実施するコンピューター、または、グループを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



11. [続行]ボタンをクリックします。



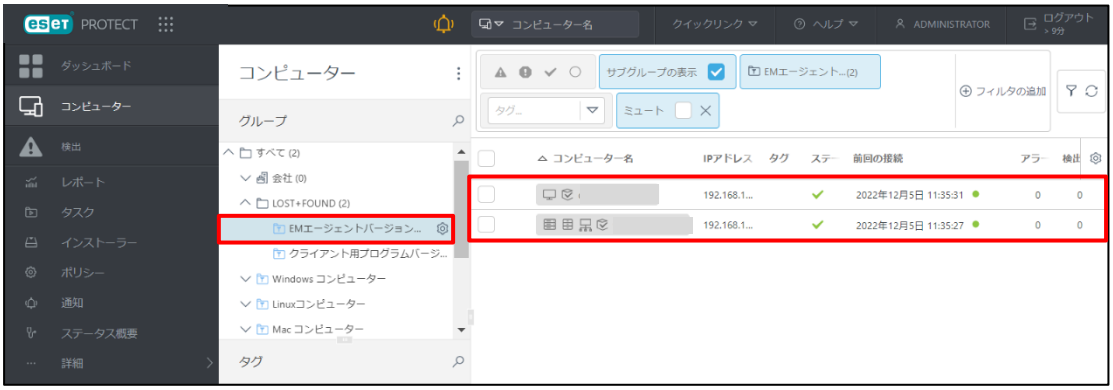
12. [トリガー]を展開し、「トリガータイプ」を選択します。
※本手順では「即時」を選択します。[終了]ボタンをクリックします。



<参考>

タスクの実行により、クライアント端末からインターネットへバージョンアップ実施のための通信が発生します。ネットワークの負荷を懸念される場合は、グループやクライアントごとに実行時間を分散することをご検討ください。

13. STEP4-1 で作成した「EM エージェントバージョンアップ完了グループ」に、クライアント端末が所属していることを確認します。



以上で、EM エージェントのバージョンアップは完了です。

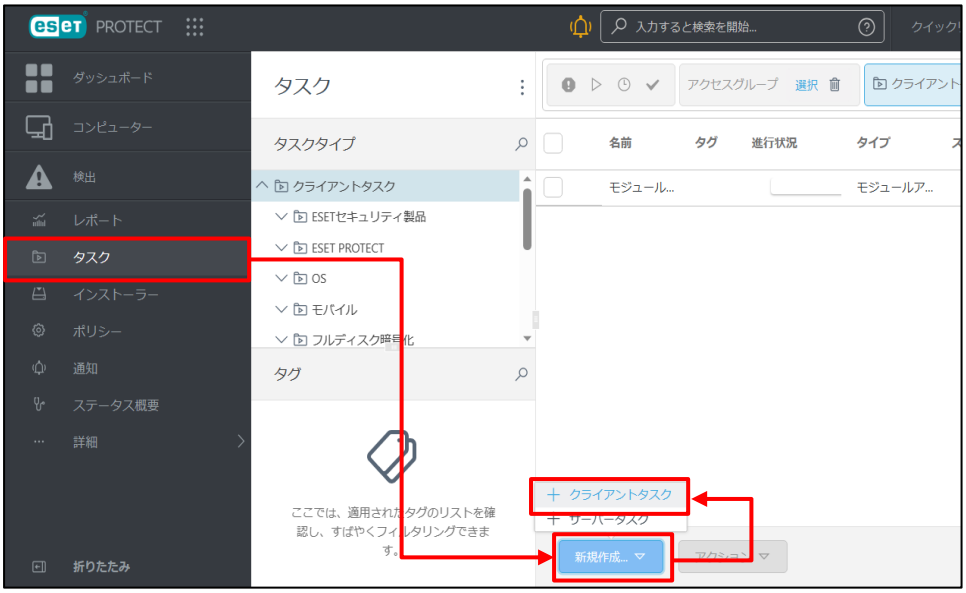
9.【STEP6】クライアント用プログラムのバージョンアップ

STEP6-1. 動作要件の確認

バージョンアップの前に、EES V10.X と EEA V10.X の動作要件を確認します。
＜ESET Endpoint Security / ESET Endpoint アンチウイルス 動作要件＞
・ESET PROTECT Entry オンプレミス(旧名称：ESET Endpoint Protection Advanced)をご利用のお客さま
https://eset-info.canon-its.jp/business/ep-entry-o/spec.html
・ESET PROTECT Essential オンプレミス(旧名称：ESET Endpoint Protection Standard)をご利用のお客さま
https://eset-info.canon-its.jp/business/ep-essential-o/spec.html

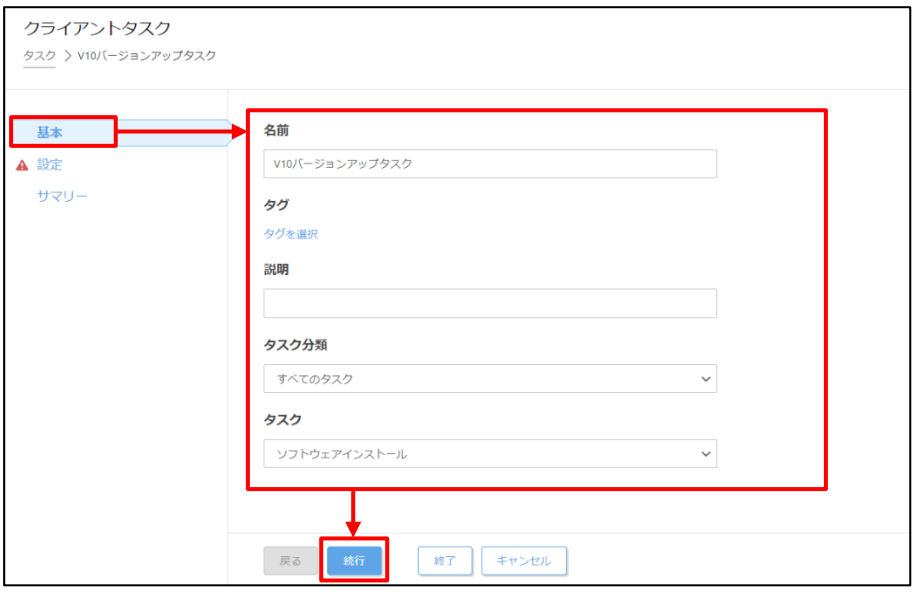
STEP6-2.クライアント用プログラムのバージョンアップ

1. [タスク]より、[新規作成]をクリックし、[クライアントタスク]を選択します。

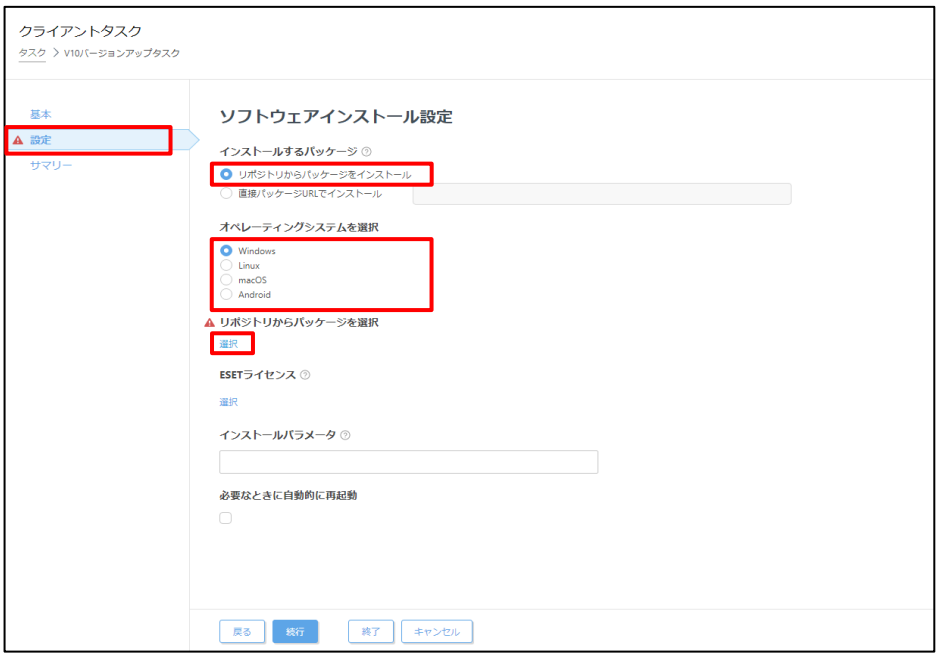


2. [基本]を展開し、以下の通り設定します。
その後、[続行]ボタンをクリックします。

名前	任意の名前(例：V10 バージョンアップタスク)
説明	任意で入力
タスク分類	すべてのタスク
タスク	ソフトウェアインストール



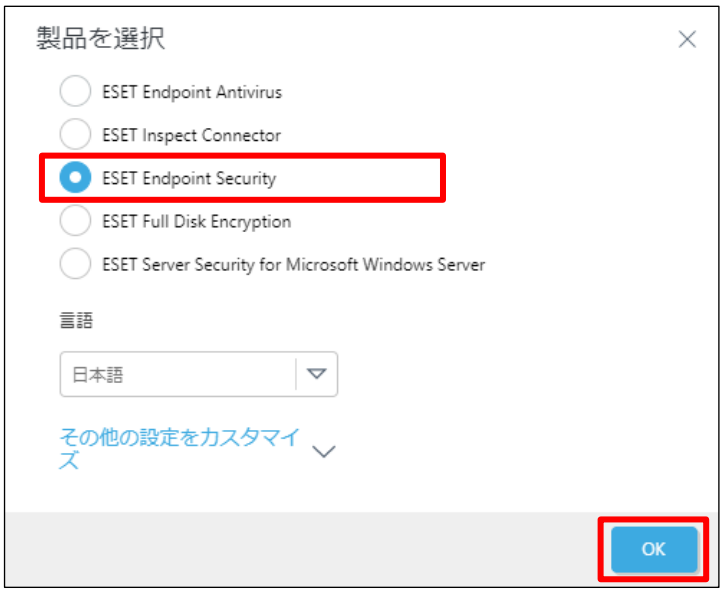
3. [設定]を展開します。「リポジトリからパッケージをインストール」を選択し、オペレーティングシステムを選択します。
「リポジトリからパッケージを選択」の「 <選択> 」をクリックします。



4. バージョンアップする製品を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

<注意>

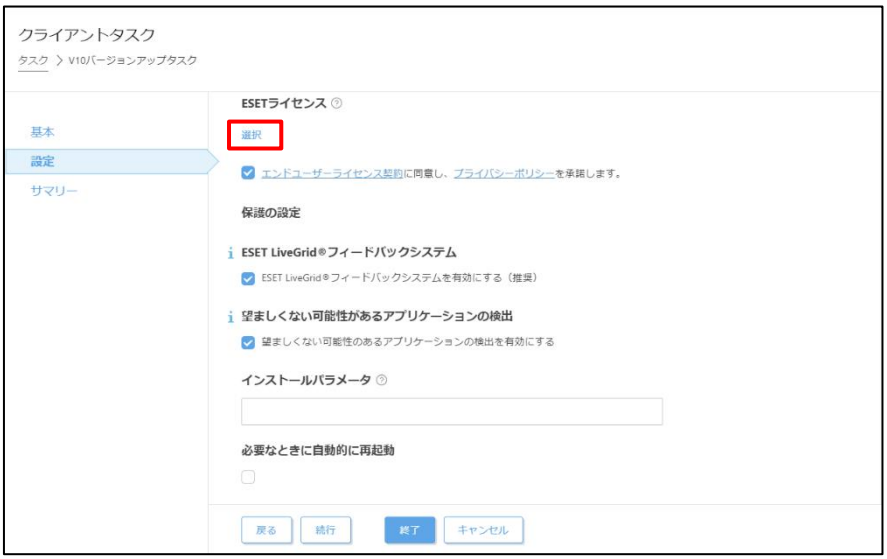
バージョンアップする製品は、お客様のご利用されているライセンスに合わせた製品を選択します。
・ESET Endpoint Antivirus + ESET Server Security：
　ESET Endpoint Antivirus を選択します。
・ESET Endpoint Security + ESET Server Security：
　ESET Endpoint Security、または ESET Endpoint Antivirus を選択します。
※製品選択を間違えないようご注意ください。
※以下は ESET Endpoint Security を選択した際の画面例です。
※バージョンは最新のものが選択されます。[その他の設定をカスタマイズ]を展開することで選択されているバージョンの確認や変更が可能です。



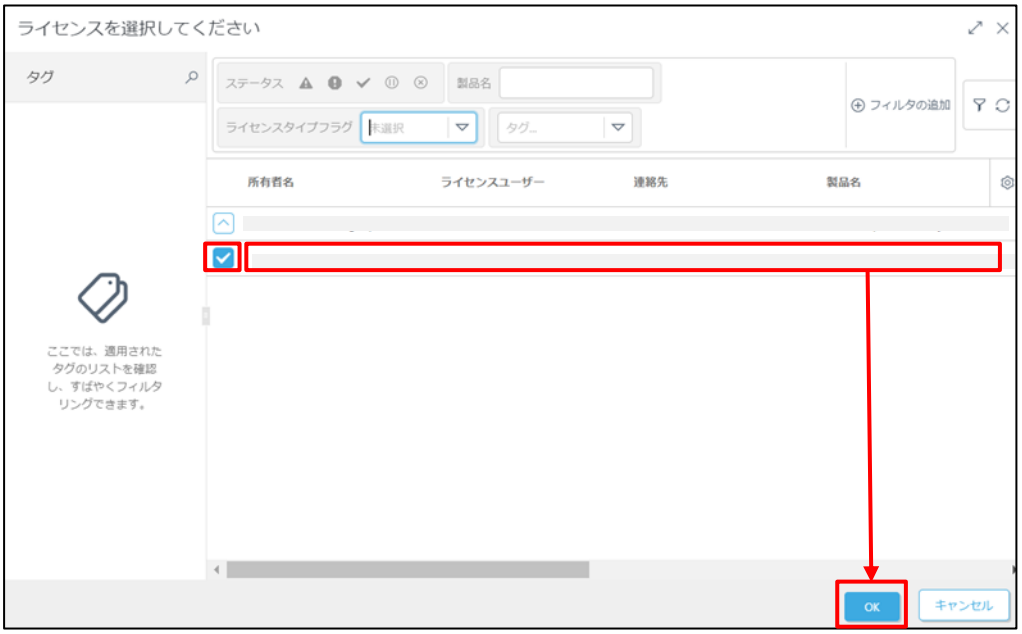
<参考>

サーバー用プログラムの EFSW(管理サーバーにインストールされている EFSW を除く)をバージョンアップする場合は、製品名で「ESET Server Security for Microsoft Windows Server」を選択します。

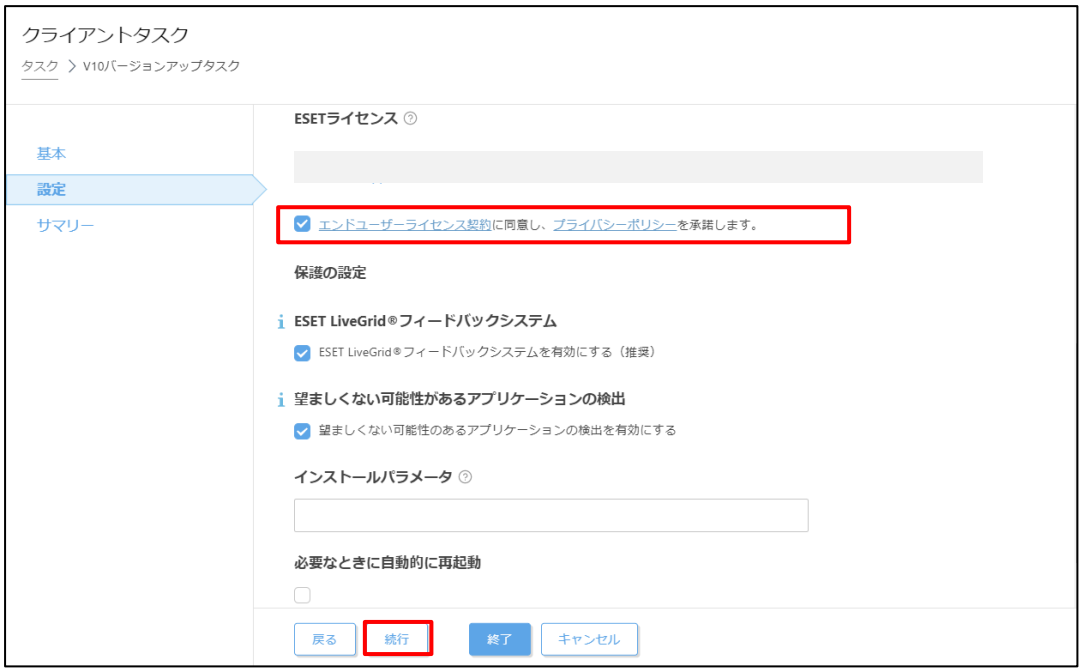
5. ESET ライセンスの「＜選択＞」をクリックします。



6. ライセンス選択画面では[＾]を展開し、ご利用ライセンスを選択のうえ、[OK]ボタンをクリックします。
※ご利用されている管理プログラムによっては、以下のエラーメッセージが表示され、作業が進まなくなってしまう場合があります。
◆タスクの作成に失敗しました：ライセンスサーバーへの接続に失敗しました
上記エラーが表示された場合、「キャンセル」ボタンよりタスクの作成を中止後、再度タスクの作成を実施してください。その際、本手順の 5～6 にてご案内している ESET ライセンスは選択せずに作業を進めてください。



7. 「エンドユーザーライセンス契約に同意し、プライバシーポリシーを承諾します。」にチェックを入れます。
その後「続行」をクリックします。



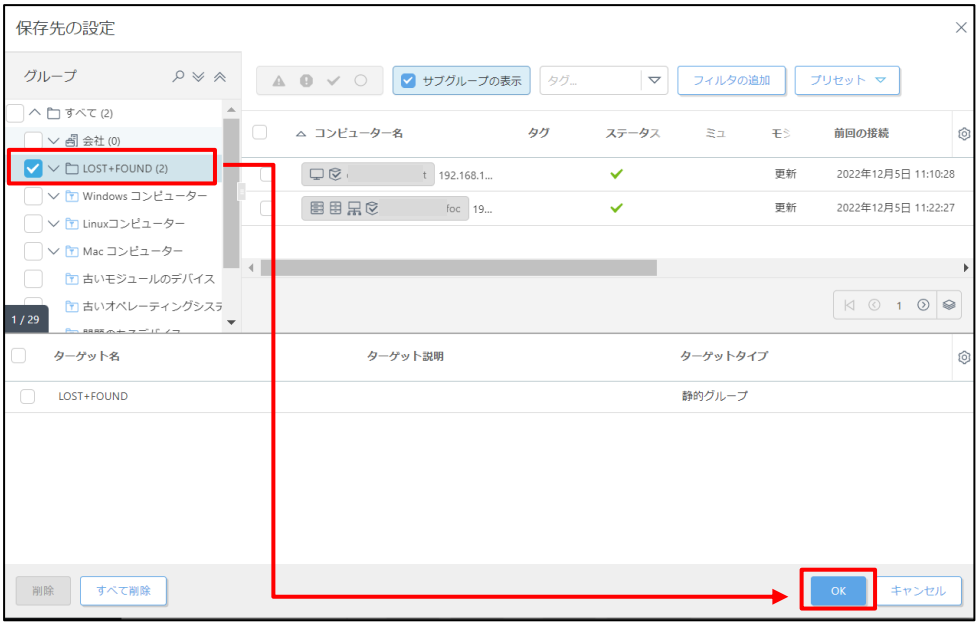
8. 「サマリー」の内容を確認し、問題がなければ[終了]ボタンをクリックします。

9. 以下の画面が表示されたら、[トリガーの作成]ボタンをクリックします。

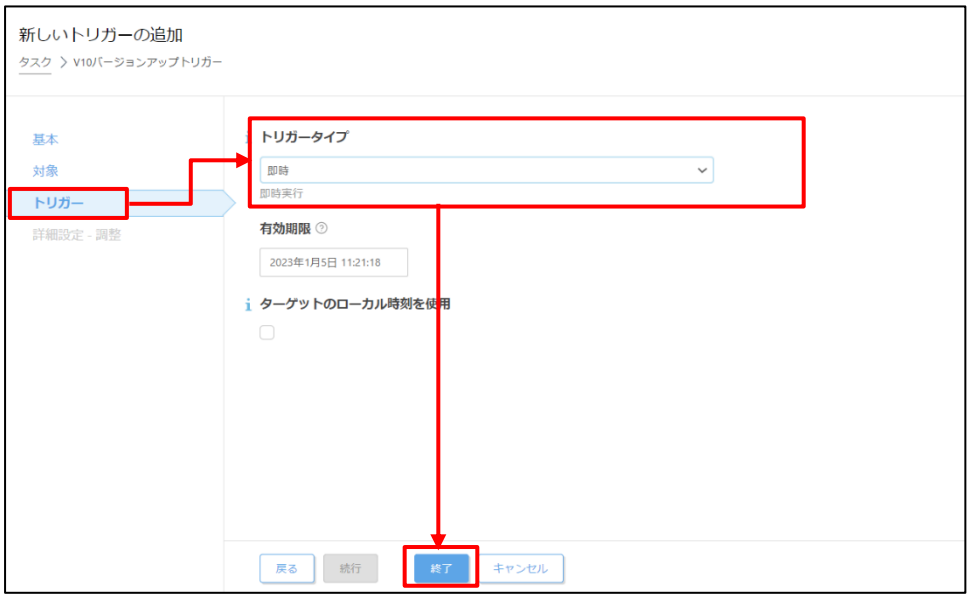
10. [基本を展開し、任意のトリガーの説明(例：V10 バージョンアップトリガー)を入力します。

11. [対象]を展開し、「ターゲットの追加」を選択します。

12. バージョンアップするクライアントが所属するグループを選択し、[OK]ボタンをクリックします。



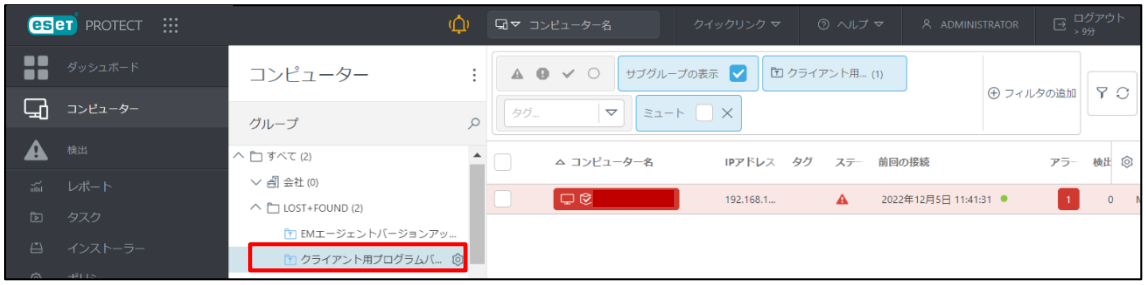
13. [トリガー]を展開し、「トリガータイプ」を選択します。
※本手順では「即時」を選択します。
[終了]ボタンをクリックします。



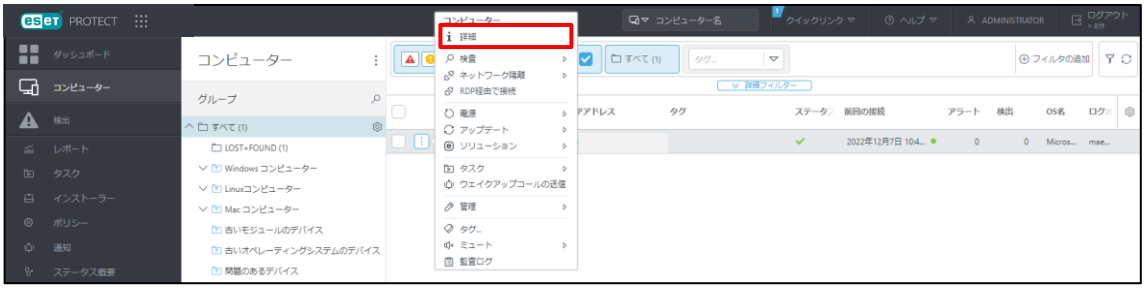
<参考>

タスクの実行により、クライアント端末からインターネットへバージョンアップ実施のための通信が発生します。ネットワークの負荷を懸念される場合は、グループやクライアントごとに実行時間を分散することをご検討ください。

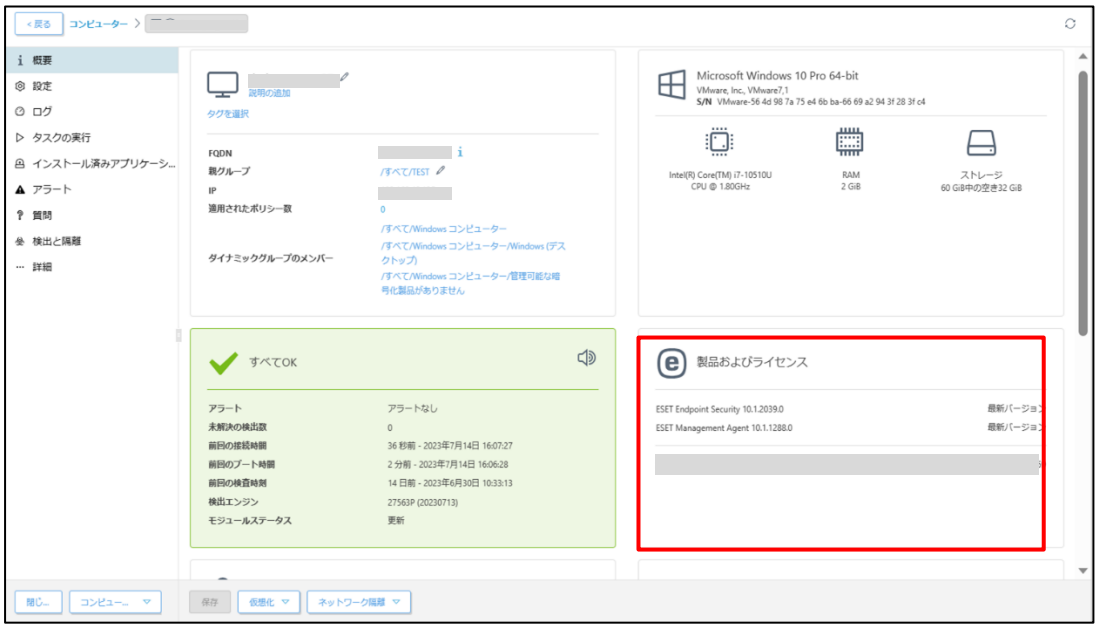
14. 「コンピューター」より、STEP4-1 で作成した動的グループに、バージョンアップしたクライアントが所属していることをご確認ください。
※バージョンアップ後は再起動が必要なため、最初は赤色のアラートで表示されます。
その場合は、クライアントの再起動を行ってください。



15. 再起動後、コンピューターの「詳細」をクリックします。



16. セキュリティ製品バージョンが「10.0」以上になっていることをご確認ください。



10. 【STEP7】ESET PROTECT での管理開始

1. EP Web コンソール を起動して、ESET PROTECT に接続します。
   ユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。
   ※EP Web コンソールには以下の URL よりアクセスできます。
   https://＜管理サーバーのサーバー名、または、IP アドレス＞/era

2. 「コンピューター」より、管理しているクライアントのステータスが正常なこと、セキュリティ製品バージョンが最新であることが確認できれば、バージョンアップ完了です。